

科目名	声楽実技研究Ⅴ			科目ナンバリング	VM3M1C05
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・言葉の発音や表現法をさらに向上させ、各自に応じた楽曲を構成力を伴った演奏表現ができる。 * 実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	声楽実技研究Ⅰ～Ⅳで習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。楽曲の構成についても研究する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲13(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲13(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲13(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲13(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲14(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲14(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲14(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲14(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲15(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲15(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲15(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲15(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究Ⅵ			科目ナンバリング	VM3M1C06
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・言葉の発音や表現法をさらに向上させ、各自に応じた楽曲の内容が伝わる演奏表現ができる。 * 実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	声楽実技研究Ⅰ～Ⅴで習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。伝わる表現の仕方についても研究する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲16(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲16(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲16(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲16(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲17(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲17(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲17(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲17(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲18(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲18(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲18(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲18(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究Ⅶ			科目ナンバリング	VM3M1C07
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現を深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏できる。 * 実技試験(学内演奏会)は8分以上10分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	各自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究Ⅰ～Ⅵで習得した歌唱技術をさらに高め、楽曲のレパートリーを広げていく。学内演奏会でのプログラミングや演奏マナーについて学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲19(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲19(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲19(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲19(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲20(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲20(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲20(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲20(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲21(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲21(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲21(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲21(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究Ⅷ			科目ナンバリング	VM3M1C08
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現を深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏できる。 * 実技試験(学内演奏会)は8分以上10分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わないが、日本歌曲を必ず含むこと。			
授業の概要	各自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究Ⅰ～Ⅶで習得した歌唱技術をさらに高め、日本語を含む楽曲のレパートリーを広げていく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲22(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する
	3	各自課題曲22(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する
	4	各自課題曲22(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲22(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲23(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する
	7	各自課題曲23(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する
	8	各自課題曲23(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲23(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲24(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲24(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲24(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲24(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	器楽実技研究Ⅴ(ピアノ)			科目ナンバリング	PS3M1C13
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	練習曲というジャンルを通して多くの作曲家に触れ、ピアノ技術の新しい視野を開くことを目標とする			
授業の概要	高度な技術を目指して、難易度の高い練習曲を習得する。特に、ロマン派以降の練習曲に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの授業計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	ロマン派から近現代の練習曲について学ぶ	ロマン派の練習曲にはどのような曲があるのか調べる	後期ロマン派の時代背景を知る
	3	読譜と分析① ロマン派の時代背景を中心に学修する	読譜の徹底	技術の向上を目指す
	4	読譜と分析② ロマン派の様式を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
	5	課題曲の構成 奏法を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	奏法の追求	指示された事柄について練習を進める
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	転調を意識して練習

	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	技術の徹底
	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
	15	総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員での採点)

科目名	器楽実技研究Ⅴ（管弦打）			科目ナンバリング	PS3M1C13
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	3年次は応用力・実践力を試す時で、対外的な演奏やコンクール等に積極的に挑戦し、スキルアップを目指し、今までやってきたことを確信へと変えることができる			
授業の概要	3年次は1・2年次で身に付けた基礎力を基に、応用・実践という段階に入る。エチュード（オーケストラスタディ含）の種類も増やし、難易度を上げていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① （エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認）	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② （エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ （エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ （エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ （エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ （エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他）	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合 は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合 わせをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

このシートには直接入力できません。

科目名	器楽実技研究Ⅵ(ピアノ)			科目ナンバリング	PS3M1C14
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。古典派、ロマン派の音楽と比較しながら、近・現代の音楽を把握できる			
授業の概要	学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。近・現代の楽曲を通してその特徴を理解し、感性豊かな音楽作りを目指す			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの学習計画を立てる 近・現代の作曲家についてについて学ぶ	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	近・現代の作品について① 近・現代の作品を聴く	近・現代の作品を聴く	近・現代の時代背景を復習する
	3	近・現代の作品について② 楽曲を決め読譜と分析を行う	指示された内容まで到達するよう練習する	近・現代の音階を考えて練習
	4	課題曲の構成① 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
	5	課題曲の構成② 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める

	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習
	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ
	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	技術の徹底
	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員での採点)

科目名	器楽実技研究Ⅵ(管弦打)			科目ナンバリング	PS3M1C14
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	3年次は応用力・実践力を試す時で、対外的な演奏やコンクール等に積極的に挑戦し、スキルアップを目指し、今までやってきたことを確信へと変化させ、更に初見能力や、音楽に対するあらゆる適応力を身に付けることができるようになる			
授業の概要	3年次は1・2年次で身に付けた基礎力を基に、応用・実践という段階に入る。エチュード(オーケストラスタディ含)の種類も増やし、難易度を上げていく。同時にソロ曲を複数挑むことも視野に入れる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ (エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ (エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ (エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合 は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合 わせをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽実技研究Ⅶ(ピアノ)			科目ナンバリング	PS3M1C15
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	学内演奏(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする			
授業の概要	学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適正に応じた任意の楽曲に取り組む。3年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	4年次の研究テーマを決める① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマを探す	指示された事柄について練習を進める
	2	4年次の研究テーマを決める② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する
	3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる
	4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
	5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める
	6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析
	7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	読譜の徹底
	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究Ⅶ(管弦打)			科目ナンバリング	PS3M1C15
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	4年次前期は、実技試験も「学内演奏会」という公開試験となるので、まさに集大成としてこれまで学修したことを存分に発揮することが求められる。高いところに目標を定め、挑戦し続けるという積極性と精神を養うことができる			
授業の概要	4年次は1・2・3年次で身に付けたことの集大成となる。従って、プロの演奏家としての心構えや、演奏レベル、独創性等、あらゆる分野にもまたがり、社会に出る準備をするためのレッスンを行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習
	2	学内演奏会(前期実技試験)用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ (エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ (エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ (エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合 は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合 わせをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽実技研究Ⅷ(ピアノ)			科目ナンバリング	PS3M1C16
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	卒業試験(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする			
授業の概要	学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適正に応じた任意の楽曲に取り組む。3年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	研究テーマの楽曲を学ぶ① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマの楽曲について調べる	指示された事柄について練習を進める
	2	研究テーマの楽曲を学ぶ② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する
	3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる
	4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
	5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める
	6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析
	7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	読譜の徹底
	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究Ⅷ(管弦打)			科目ナンバリング	PS3M1C16
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	4年次後期の実技試験は「卒業試験」として公開試験となる。成績上位者はさらに「卒業演奏会」に出演することとなる。前期同様、まさに集大成としてこれまで学修したことを存分に発揮することが求められる。高いところに目標を定め、挑戦し続けるという積極性と精神を養うことができるようになる			
授業の概要	4年次は1・2・3年次で身に付けたことの集大成となる。従って、プロの演奏家としての心構えや、演奏レベル、独創性等、あらゆる分野にもまたがり、社会に出る準備をするためのレッスンを行う。後期は卒業に向けての総仕上げとなるので、妥協を許さない内容となる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省と後期の計画について 他	前期の反省と後期の目標を考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ (エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ (エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ (エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合 は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合 わせをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	創作応用演習Ⅴ（作曲）			科目ナンバリング	CR3M1N21
担当者	中島 慧				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCD
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、作品創作への足がかりを作る。			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅴの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅳ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	伴奏付け・即興演奏・和声実習 （近親転調終止形による調の判定）	課題実習	課題復習
	3	伴奏付け・即興演奏・和声実習 （近親転調バス課題）	課題実習	課題復習
	4	伴奏付け・即興演奏・和声実習 （ソプラノ近親転調の定型）	課題実習	課題復習
	5	伴奏付け・即興演奏・和声実習 （ソプラノ近親転調の実習）	課題実習	課題復習
	6	楽曲アナリーゼ（ピアノ曲） ブルグミュラー25の練習曲（牧歌）	課題実習	課題復習
	7	楽曲アナリーゼ（ピアノ曲） ブルグミュラー25の練習曲（アラベスク）	課題実習	課題復習
	8	楽曲アナリーゼ（ピアノ曲） シューマン子供の情景	課題実習	課題復習

	9	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習	課題復習
	10	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習	課題復習
	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習	課題復習
	12	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習	課題復習
	13	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げ	課題実習	課題復習
	14	自作曲のレッスン、記譜について④ 演奏によるまとめ	課題実習	課題復習
	15	創作応用演習Ⅴのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	和声Ⅲ 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅴ(ミュージックパフォーマンス)			科目ナンバリング	CR3M1N21
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	Ⅰ 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける Ⅱ 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける Ⅲ 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリゼ)と演奏表現について	課題①アナリゼ	課題①練習・基礎練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナリゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	既成曲②練習・基礎練習
	8	既成曲②の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲②の編曲	既成曲②練習・基礎練習

	9	既成曲②の編曲② 分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・ 楽譜制作	既成曲②練習・基礎練習
	10	既成曲②の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	既成曲②のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習・基礎練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクス)について	試験曲練習・基礎練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅴ のまとめⅥの準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	創作応用演習Ⅵ(作曲)			科目ナンバリング	CR3M1N23
担当者	中島 慧				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCD
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、作品創作への足がかりを作る。			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	Ⅵの学修課題内容の説明。課題の目標と取り組み方について。自作品の創作。Ⅴ全般の復習	自作品の創作、創作応用演習Ⅳ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング (吹奏楽曲課題1)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	3	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング (吹奏楽曲課題2)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	4	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング (管弦楽曲課題1)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	5	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング (管弦楽曲課題2)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	6	即興・対位法・和声実習 (準固有和音調バス)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	7	即興・対位法・和声実習 (準固有和音調ソプラノ)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	8	即興・対位法・和声実習 (固有和音同主調バス)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習

	9	即興・対位法・和声実習 (固有和音同主調ソプラノ)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	11	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	13	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	14	自作曲のレッスン、記譜について④ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリゼ	課題復習
	15	創作応用演習Ⅵのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	和声Ⅲ 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅵ(ミュージックパフォーマンス)		科目ナンバリング	CR3M1N22	
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	3年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリゼ)と演奏表現について	課題①アナリゼ	課題①練習・基礎練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナリゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	既成曲②練習・基礎練習
	8	既成曲②の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲②の編曲	既成曲②練習・基礎練習

	9	既成曲②の編曲② 分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・ 楽譜制作	既成曲②練習・基礎練習
	10	既成曲②の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	既成曲②のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習・基礎練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクス)について	試験曲練習・基礎練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅴ のまとめⅥの準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	創作応用演習Ⅶ(作曲)			科目ナンバリング	CR3M1N23
担当者	中島 慧				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCD
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、より発展的な知識を発揮し、作、編曲家として必要に足る能力を身につける			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅶの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅵ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	即興・対位法 和声実習(借用和音)①	課題実習	課題復習
	3	即興・対位法 和声実習(借用和音)②	課題実習	課題復習
	4	即興・対位法 和声実習(借用和音)③	課題実習	課題復習
	5	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習①	課題実習	課題復習
	6	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習②	課題実習	課題復習
	7	音楽形式(ソナタ形式)理論～実習③	課題実習	課題復習
	8	楽曲アナリーゼ(近代作品)① ラヴェル ソナチネ	課題実習	課題復習

	9	楽曲アナリーゼ(近代作品)② ラヴェル ソナチネ	課題実習	課題復習
	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習	課題復習
	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習	課題復習
	12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習	課題復習
	13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について④ 楽譜の仕上げ	課題実習	課題復習
	14	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑤ 演奏によるまとめ	課題実習	課題復習
	15	創作応用演習Ⅶのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅶ(ミュージックパフォーマンス)			科目ナンバリング	CR3M1N23
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリゼ)と演奏表現について	課題①アナリゼ	課題①練習・基礎練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナリゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	作曲・基礎練習
	8	自作曲への取り組み① メロディーと編成について	作曲(メロディー)	作曲・基礎練習

	9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜 制作	作曲・基礎練習
	10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習・基礎 練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習・基礎 練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習・基礎 練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習・基礎 練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習・基礎 練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅶ のまとめ Ⅷの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	創作応用演習Ⅷ(作曲)			科目ナンバリング	CR3M1N24
担当者	中島 慧				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、より発展的な知識を発揮し、作、編曲家として必要に足る能力を身につける。			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅷの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅶ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	即興・対位法・和声実習 (内部変換)	課題実習	課題復習
	3	即興・対位法・和声実習 (構成音の転位)	課題実習	課題復習
	4	即興・対位法・和声実習 (構成音の転位、休符、アウフタクト)	課題実習	課題復習
	5	即興・対位法 和声実習(反復進行)①	課題実習	課題復習
	6	即興・対位法 和声実習(反復進行)②	課題実習	課題復習
	7	即興・対位法 和声実習(階梯導入)①	課題実習	課題復習
	8	即興・対位法 和声実習(階梯導入)②	課題実習	課題復習

	9	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習	課題復習
	10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習	課題復習
	11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習	課題復習
	12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について④ 楽譜の仕上げ	課題実習	課題復習
	13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑤ 効果的な音響・PAについて	課題実習	課題復習
	14	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑥ 演奏によるまとめ	課題実習	課題復習
	15	創作応用演習Ⅷのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅷ(ミュージックパフォーマンス)			科目ナンバリング	CR3M1N24
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する能力を育てる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリゼ)と演奏表現について	課題①アナリゼ	課題①練習・基礎練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	既成曲①練習・基礎練習
	5	既成曲①の編曲① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	既成曲①の編曲	既成曲①練習・基礎練習
	6	既成曲①の編曲② 分析(アナリゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲①の編曲・楽譜制作	既成曲①練習・基礎練習
	7	既成曲①の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	自編曲のまとめ	作曲・基礎練習
	8	自作曲への取り組み① メロディーと編成について	作曲(メロディー)	作曲・基礎練習

	9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜 制作	作曲・基礎練習
	10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習・基礎 練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習・基礎 練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習・基礎 練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習・基礎 練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習・基礎 練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅶ のまとめ Ⅷの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	サウンドデザインⅤ			科目ナンバリ	SD2M1N29
担当者	向野 友規				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				
授業のテーマ及び到達目標	・より専門的なDTMの知識を修得、自身の楽曲制作に活かすことができるようになる。 ・トレンド感のある音色の制作や、それを用いたアレンジすることができるようになる。 ・音の重ね方、高さ、長さなどに関心を持たせ、理解できるようになる。				
授業の概要	・トレンド感のある音色の制作を通じて、アレンジ力を鍛える。				
授業計画	回	学習内容		事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション		特になし	課題実習
	2	ボリュームフェーダー、パンニングのみを使用したミキシング①		前回の復習	課題実習
	3	ボリュームフェーダー、パンニングのみを使用したミキシング②		前回までの復習	課題実習
	4	リリースカットピアノの制作①		前回までの復習	課題実習
	5	リリースカットピアノの制作②		前回までの復習	課題実習
	6	ボーカルチョップの制作①		前回までの復習	課題実習
	7	ボーカルチョップの制作②		前回までの復習	課題実習

	8	レイヤリング、音の高さについて	前回までの復習	課題実習
	9	サイドチェーン(サイドチェーンコンプ、ボコーダー等)を使用したトラック制作	前回までの復習	課題実習
	10	グラニュラーシンセを使用したトラックの制作	前回までの復習	課題実習
	11	既存楽曲のリミックス、アレンジ①	前回までの復習	課題実習
	12	既存楽曲のリミックス、アレンジ②	前回までの復習	課題実習
	13	音響 理論と実習	前回までの復習	課題実習
	14	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	15	制作・実習	前回までの復習	前期試験課題実習
使用教科書				
参考書・参考資料等				
適宜プリントを配布する				
成績評価基準				
	評価方法		割合	評価のポイント
	実技試験		80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点		10%	出席数や受講態度等
	学外活動		10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	サウンドデザインⅥ			科目ナンバリ	SD2M1N30
担当者	向野 友規				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				
授業のテーマ及び到達目標	・即戦力となる、トレンド感のあるダンスミュージックのジャンルの制作を行い、さまざまな楽曲の流行などを理解できるようになる。				
授業の概要	・即戦力となる、トレンド感のあるジャンルの制作を行う。 ・それぞれのジャンルのドラムパターンや、使われている音色の制作を行う。				
授業計画	回	学習内容		事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション		特になし	課題実習
	2	House制作①		前回の復習	課題実習
	3	House制作②		前回までの復習	課題実習
	4	Hiphop / Trap制作①		前回までの復習	課題実習
	5	Hiphop / Trap制作②		前回までの復習	課題実習
	6	Future Bass制作①		前回までの復習	課題実習
	7	Future Bass制作②		前回までの復習	課題実習

	8	Drum' n' Bass制作①	前回までの復習	課題実習
	9	Drum' n' Bass制作②	前回までの復習	課題実習
	10	Garage制作①	前回までの復習	課題実習
	11	Garage制作②	前回までの復習	課題実習
	12	Ambient制作／Macの起動音の制作	前回までの復習	課題実習
	13	音響 理論と実習	前回までの復習	課題実習
	14	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	15	制作・実習	前回までの復習	前期試験課題実習
使用教科書				
参考書・参考資料等				
適宜プリントを配布する				
成績評価基準				
	評価方法		割合	評価のポイント
	実技試験		80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点		10%	出席数や受講態度等
	学外活動		10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	サウンドデザインⅦ				科目ナンバリ	SD2M1N30	
担当者	向野 友規						
担当形態	複数				単位数	2単位	
対象学科	音楽学科				開設学年	4年次	
開講時期	前期						
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
	※				ABDE		
備考	※サウンドデザインコース必修						
授業のテーマ及び到達目標	・在学中に学習した知識や経験を活かし、個性を追求・表現できるようになる。						
授業の概要	・自身で制作すべきテーマを探し、試験に向けての制作と実習を行う。楽曲制作スピード、クオリティ、またパフォーマンスの向上。						
授業計画	回	学習内容			事前学習	事後学習	
	1	オリエンテーション			特になし	課題実習	
	2	制作・実習			前回の復習	課題実習	
	3	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	4	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	5	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	6	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	7	制作・実習			前回までの復習	課題実習	

	8	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	9	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	10	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	11	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	12	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	13	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	14	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	15	制作・実習	前回までの復習	前期試験課題実習
使用教科書				
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する			
成績評価基準	評価方法		割合	評価のポイント
	実技試験		80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点		10%	出席数や受講態度等
	学外活動		10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	サウンドデザインⅧ				科目ナンバリ	SD2M1N32	
担当者	向野 友規						
担当形態	複数				単位数	2単位	
対象学科	音楽学科				開設学年	4年次	
開講時期	後期						
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
	※				ABDE		
備考	※サウンドデザインコース必修						
授業のテーマ及び到達目標	・在学中に学習した知識や経験を活かし、個性を追求・表現できるようになる。						
授業の概要	・自身で制作すべきテーマを探し、試験に向けての制作と実習を行う。楽曲制作スピード、クオリティ、またパフォーマンスの向上。						
授業計画	回	学習内容			事前学習	事後学習	
	1	オリエンテーション			特になし	課題実習	
	2	制作・実習			前回の復習	課題実習	
	3	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	4	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	5	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	6	制作・実習			前回までの復習	課題実習	
	7	制作・実習			前回までの復習	課題実習	

	8	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	9	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	10	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	11	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	12	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	13	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	14	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	15	制作・実習	前回までの復習	前期試験課題実習
使用教科書				
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する			
成績評価基準	評価方法		割合	評価のポイント
	実技試験		80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点		10%	出席数や受講態度等
	学外活動		10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	音楽教育演習Ⅴ			科目ナンバリング	ME3M1N37
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	3年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	これからの音楽科教育のあり方についての理解を深める。 教材開発や模擬指導を通して、思考力や創造力を高める。			
授業の概要	教育に関する諸調査の結果を分析することを通して、音楽科のかかえる課題をとらえ、その改善の方向性を探る。 生徒主体の授業づくりについての理解をもとに、日本の伝統音楽を教材とした授業を構想し、学習展開案を作る。 模擬授業の検討を通して、授業構想の改善を図る。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	音楽教育Ⅳ模擬授業①②	模擬授業の準備	シラバスの熟読
	2	中学校音楽教育の現状と課題 ・特定の課題に関する調査結果分析 ・PISA学力調査の結果分析	配付資料を読んでおく	二つの調査結果で分かったことをまとめる
	3	「生徒主体」について考察	二つの調査結果分析を見直しておく	「生徒主体」についてまとめる
	4	考察したことをもとに、これから求められる音楽教育の在り方を発表	チームズで資料を提出	スライドをまとめ直す
	5	日本の伝統音楽について 歌舞伎「勧進帳」の鑑賞 ・歌舞伎の歴史と特徴	歌舞伎「勧進帳」の話の内容をまとめておく	歌舞伎の歴史をまとめ「勧進帳」の教材分析をする
	6	歌舞伎「勧進帳」の教材分析 ・演技、化粧、衣装	教材分析した内容をチームズで提出する	授業構想を始める
	7	教材分析 ・長唄	長唄について調べておく	長唄についてまとめる
	8	教材分析 ・三味線	三味線について調べておく	指導計画を立てる

	9	目標と指導計画の検討	学習指導要領の鑑賞指導内容を再確認しておく	教える内容と任せる内容を確認しておく
	10	学習活動の工夫	主な学習活動を考えチームズで提出しておく	学習活動の細案をまとめる
	11	予想される生徒の反応と教師の支援	生徒の反応を予想しておく	学習活動と教師の支援をまとめる
	12	生徒の学びの把握(評価)	観点別学習状況評価について復習をしておく	指導計画をまとめ、学習指導案を作成し提出する
	13	模擬授業(A)と意見交換	模擬授業の準備をしておく	意見交換会の内容をまとめる
	14	模擬授業(B)と意見交換	模擬授業の準備をしておく	意見交換会の内容をまとめる
	15	改善課題検討会	課題についての改善策を考えておく	検討会の意見をもとに学習指導案を修正する

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	学生が作成する資料,

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題に対する取り組み	80%	模擬授業、学習指導案、提出物
	毎時間の振り返り	20%	講義内容の理解、自分なりの考えのまとめ

科目名	音楽教育演習Ⅵ			科目ナンバリング	ME3M1N38
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	3年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	学校現場の授業を観察・参加したり、これまで模擬授業を実施したりしたことを通して、さまざまな教育課題に気付くとともに、教育改善の必要性を理解する。			
授業の概要	音楽教育についての課題を整理し研究主題を設定し、研究計画を立てる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教育改革の流れ	10年後の教育について自分の考えをまとめておく	「音楽教育の流れ」をまとめる
	2	「主体的・対話的で深い学び」について考察	学習指導要領改訂の趣旨を調べ、まとめておく	アクティブラーニングの授業づくりの視点をまとめる
	3	「カリキュラムマネジメント」について考察	配付資料を読んで、ポイントをまとめておく	教科横断的な題材を考え、概要をまとめる
	4	特別支援教育と音楽	特別支援教育充実ガイドブックをすべて読む	実際の授業での重要点をまとめる
	5	近隣中学校の授業から学ぶ	質問したいことなどを準備しておく	参観して学んだことをまとめる
	6	授業づくりの工夫点について検討	レポートをチームズで提出する	これからの授業のあり方についてまとめる
	7	卒業研究の進め方(ガイダンス)	前もって卒業生の論文を見ておく	興味のある教育課題を洗い出す
	8	過年度の卒業論文の内容を調べる	過年度の卒業論文概要集を読み直しておく	興味のある教育課題を洗い出す

	9	過年度の卒業論文の内容を調べる	過年度の卒業論文概要集を読み直しておく	興味のある教育課題を洗い出す
	10	興味のある課題に関する情報を集める	探した資料を読み、まとめておく	研究したい内容を整理する
	11	興味のある課題に関する情報を集める	探した資料を読み、まとめておく	研究したい内容を整理する
	12	研究の動機と課題について考える	研究したい内容をまとめておく	教育界の動向を調べまとめておく
	13	研究したい課題に関する情報を集める	探した資料等を読みまとめておく	研究したい課題に関する資料等を探す
	14	研究したい課題に関する情報を集める	探した資料等を読みまとめておく	研究したい課題に関する文献を探す
	15	研究の計画を立てる	探した文献を読んでおく	研究の動機と研究計画をまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学校学習指導要領解説総則編(平成29年)(東山書房),
	中学生の音楽1(令和7年度),
	中学生の音楽2・3上(令和7年度),
	中学生の音楽2・3下(令和7年度)(教育芸術社)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小論文	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	研究テーマに関する考察	30%	理解度、根拠に基づいた論述
	毎時間の振り返り	20%	講義内容の理解、自分なりの考え

科目名	音楽教育演習Ⅶ			科目ナンバリング	ME3M1N39
担当者	岩山 恵美子・中村 理恵				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考	※仮題目提出 R7年5月21日(水)				

授業のテーマ及び到達目標	各自が設定した研究主題について調査・研究を進め「研究主題について」「研究の進め方」「研究の実際」としてまとめることができる。			
授業の概要	1年次から培ってきた理論・実践両面の成果を基盤として、教師あるいはレスナーとしての指導実践を想定して研究主題を設ける。 研究計画に沿って研究を進める。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	研究計画 ・今後の研究の進め方	令和6年度卒業論文概要集を読んでおく	主題に関する資料を読み、内容をまとめる
	2	研究計画 ・研究動機と研究の方法について	研究の動機を読み直しておく	主題に関する資料を読み、内容をまとめる
	3	研究主題の設定 ・明らかにしたいこと	「何を明らかにしたいのか」考えておく	主題に関する資料を読み進め、まとめる
	4	研究の進め方 ・研究の基礎的な考え方や研究方法	研究計画を見直しておく	「研究の構想」をまとめる
	5	研究主題の考察	「研究主題について」を自分なりに書いておく	指摘を受けた内容を整理し、書き直す
	6	経過報告会 ・研究の経過報告と意見交換	経過報告の準備をする	「研究主題について」を振り返り、内容の充実を図る
	7	研究の実際 ・基礎理論に関する内容の検討	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめておく	テーマとする課題について、関係資料を読み深める。
	8	研究の実際 ・基礎理論に関する内容 ①	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める

	9	研究の実際 ・基礎理論に関する内容 ②	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	10	研究の実際 ・基礎理論に関する内容 ③	各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	11	研究の実際 ・学習指導要領との関連	テーマと関連する学習指導要領の内容をまとめておく	指摘を受けた内容を整理し、書き直す
	12	経過報告会 ・研究の経過報告と意見交換	経過報告会の準備をする	研究の取り組みを振り返り、内容の充実を図る
	13	研究の実際 ・調査および検証の方法	調査および検証の具体案を考えておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	14	研究の実際 ・調査および検証の準備	調査項目や具体的な内容について考えておく	調査依頼文、調査用紙または検証の段取り表を作成する
	15	研究の実際 ・研究内容の中間まとめ	これまでの研究内容をまとめておく	指摘・指導をもとに修正し、研究をすすめる

使用教科書	
参考書・参考資料等	学生作成の資料

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題ごとの要約資料	40%	内容の深まり、伝える工夫
	毎時間の振り返り	20%	研究や制作への取り組み、積極性、協調性

科目名	音楽教育演習Ⅶ			科目ナンバリング	ME3M1N40
担当者	岩山 恵美子・中村 理恵				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考	※正式題目提出 R7年10月15日(水) 論文提出 R8年1月16日(金) 論文発表会 R8年2月3日(火)の予定				

授業のテーマ及び到達目標	各自の研究計画に従って調査・研究を進め、研究の成果を分析・考察した結果を「研究の実際」「研究の成果と課題」としてまとめることができる。 論文発表会に向けて、発表原稿・資料を整理することができる。			
授業の概要	各自で研究を進め、研究報告会での指摘や指導を参考に、分析・考察を深めていく。 発表用資料・パワーポイントを作成する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	研究報告会 ・その後の取り組みの発表と検討会	夏期休業中実施した研究の内容をまとめておく	気づきや意見を参考に、研究内容の充実を図る
	2	研究の実際 ・先行研究調べ	テーマと関連する先行実践・研究の内容を整理しておく	研究の参考となる内容を抽出・整理する
	3	研究の実際 ・各種調査および検証授業の実施	調査対象、実施日について調整・確認しておく	調査実施の記録を残しておく
	4	研究の実際 ・各種調査の結果集計	各種調査のデータを整理し、グラフ化しておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	5	研究の実際 ・各種調査結果の分析	各種調査の結果から分かったことをまとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	6	研究の実際 ・検証授業のリフレクション	検証授業の流れと生徒の反応をまとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	7	研究の実際 ・検証授業の分析	検証授業での成果と課題をまとめておく	指摘・指導を受けた内容について再考し、研究を深める
	8	研究の実際 ・各種調査および検証授業の資料整理	論文掲載用の資料を整えておく	指摘・指導を受けた内容について再考し資料を整え直す

	9	研究の実際 ・研究の成果	研究で明らかに なったことをまとめ ておく	指摘・指導を受け た内容について 再考し、研究を深 める
	10	研究の実際 ・残された課題と今後の取り組み	残された課題と今 後の見通しをまと めておく	指摘・指導を受け た内容について 再考し、研究を深 める
	11	研究論文に掲載する資料の確認	掲載する資料を全 て整えておく	指摘・指導をもと に、掲載する資料 を修正をする
	12	研究論文全文の読み合わせ	提出用論文を整え ておく	指摘・指導をもと に論文を修正する
	13	研究論文全文の修正確認	修正した提出用論 文を整えておく	指摘・指導をもと に修正し、論文を 完成させる
	14	プレゼンテーションの準備 ・発表資料の見直し・修正	発表原稿およびパ ワーポイントを作 成しておく	指摘・指導をもと に、発表原稿の内 容や資料を修正 する
	15	教育観・指導観についての検討	論文発表を終えて 考えたことをまと めておく	4年間の学びをま とめる

使用教科書	
参考書・参考資料等	学生作成の資料

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題ごとの要約資料	40%	内容の深まり、伝える工夫
	毎時間の振り返り	20%	研究や制作への取り組み、積極性、協調性

このシートには直接入力できません。

科目名	音楽療法演習Ⅴ			科目ナンバリング	MT3M1T45
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	対象者の精神・心身の健康や疾患・障害を理解し、対象者や家族治療に関わる意味を多角的・理論的に理解することを目的とし、音楽療法の意義について言語化できる。技法では、児童領域における臨床音楽技法（主に弾き歌い）を身につけることを目的とし、現場で使える楽曲を10曲以上暗譜で弾き歌いできる。			
授業の概要	児童領域に関する各論および技法を扱う。各論では、児童領域の対象者の精神・心身の健康及び疾患・障害を把握し、対象者の様々な課題を探究し、それについて考察する。技法では児童領域の対象者の健康及び疾患・障害に伴う症状に対して有効的に働きかけるための音楽による治療技法（主に弾き歌い）を学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読。	課題曲の練習
	2	児童臨床における基礎知識（発達段階の理解） 臨床場面における童謡の弾き歌い（春、花）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	3	発達検査、知能検査 臨床場面における手あそび（乳児）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	発達障害について 臨床場面における童謡の弾き歌い（友だち、先生）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	5	ピアジェの発達理論 臨床場面における手遊び曲（2～3歳児）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	6	マラーの発達理論 臨床場面における童謡の弾き歌い（夏、海）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	7	ボウルビー「愛着理論」 臨床場面における手遊び曲（3～4歳児）	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習

	8	ウィニコット「母子関係理論」 臨床場面における童謡の弾き歌い(水、雨)	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	9	スターンの発達理論と情動調律 臨床場面における手遊び曲(4～5歳児)	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	10	児童期・青年期の理解 臨床場面における童謡の弾き歌い(秋・山)	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	11	子どもへの心理療法と音楽療法 臨床場面における手遊び曲(親子で行う活動)	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	12	メディア依存について 臨床場面における童謡の弾き歌い(冬、雪)	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	13	卒業論文のテーマについて考える 即興演奏	教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習	事例についてまとめ。課題曲の練習
	14	音楽療法における声の使い方 (時期未定) * 青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる。	レッスンで学んだことをまとめる
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	ところをつなぐミュージックセラピー(ミネルヴァ書房),
	ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ(岩崎学術出版社),
	ケースに学ぶ音楽療法Ⅱ(岩崎学術出版社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽療法演習Ⅵ			科目ナンバリング	MT3M1T46
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	3年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	対象者の精神・心身の健康や疾患・障害を理解し、対象者や家族治療に関わる意味を多角的・理論的に理解することを目的とし、この領域に音楽療法の意義言語化できる。技法では、児童領域における臨床音楽技法（主に即興）を身につけることを目的とし、現場で使える楽曲を15曲以上暗譜する。			
授業の概要	演習Vに引き続き、各論では、児童領域の対象者の精神・心身の健康及び疾患・障害を把握する。さらに児童領域の対象者の様々な課題を探索し、それについて考察する。技法では、児童領域の対象者の健康及び疾患・障害に伴う症状に対して有効的に働きかけるための音楽による技法（主に即興）を学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 論文を読む	シラバスの熟読。	課題曲の練習
	2	・私の卒論テーマについて考える ・臨床場面における童謡の弾き歌い（自然、行事）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	3	・シュタイナー教育について ・臨床場面における童謡の弾き歌い（動物、動物園）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	・ダルクローズ「リトミック」について ・臨床場面における手遊び曲（からだ）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	5	・オルフの音楽教育について ・臨床場面における童謡の弾き歌い（乗り物、遠足）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	6	・コ・ミュージックセラピーの実際 ・即興体験（ピアノ）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	7	・ノードフ・ロビンズ「創造的音楽療法」 ・即興体験（楽器）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	8	・ノードフ・ロビンズ「創造的音楽療法」の実際 ・臨床場面における弾き歌い（アニメ曲）	プリントの熟読、用語の理解。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習

	9	・セッション場面におけるアセスメント ・臨床場面における手遊び曲(親子で行う活動)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	10	・セッション場面における保護者への支援 ・即興体験(声)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	11	・コミュニティ音楽療法の実際(児童) ・臨床場面における弾き歌い(その他)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	12	・児童領域の音楽療法見学	セッションの準備	セッションの記 録、まとめ
	13	・事例研究 ・臨床場面における弾き歌い(その他)	事例の熟読。課題 曲の練習	事例研究のまと め
	14	・私の卒論テーマについて考える ・臨床場面における弾き歌い(伴奏技法について)	先行研究のまとめ について調べる	卒論テーマに関 する先行研究を 探る
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・卒論テーマについて考える	授業で学修したこ とを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽療法演習Ⅶ			科目ナンバリング	MT3M1T47
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ACEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	臨床研究については、臨床実践から明らかになったこと、調査、実験研究についてはその分析結果、文献研究においては、そこから見出した新たな視点などを先行研究から探り、音楽療法の研究や手段について探究することを目標とする。弾き歌いの課題は自分で目的を定め選曲する			
授業の概要	各自の卒業研究のテーマに沿った文献を読み解く。また他の学生の研究についても共に学び、様々な研究方法について学ぶ。また弾き歌いについても適宜課題を発表する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 卒業研究の進め方について理解する	シラバスの熟読。	研究法のまとめ
	2	文献を読み解き、音楽療法の研究方法について学ぶ 弾き歌い(課題曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる 課題曲の練習
	3	個人研究について先行研究を読み解く 弾き歌い(課題曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる
	4	個人研究について先行研究を読み解く 弾き歌い(自由曲)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる
	5	グループ研究 実験法	実験法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる
	6	グループ研究 調査法	調査法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる
	7	グループ研究 事例研究法	事例研究法について調べる、プリントの熟読	課題をまとめる
	8	統計について	統計について調べるプリントの熟読	課題をまとめる

	9	個人研究について実験準備① 弾き歌い(自由曲)	各自の卒業研究 に関する文献を読み解く	個人研究について準備
	10	個人研究について実験準備②(予備実験) 弾き歌い(自由曲)	研究の手順について考える	研究の手順について確認
	11	個人研究① 弾き歌い(自由曲)	研究の手順を確認	研究をまとめる
	12	個人研究② 弾き歌い(自由曲)	研究準備	研究をまとめる
	13	個人研究まとめ 弾き歌い(自由曲)	研究準備の確認	研究をまとめる
	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) * 青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読 課題曲の練習	レッスンで学んだ ことをまとめる
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	個人研究について 振り返る、課題曲 の練習	個人研究について まとめる

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	文献研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	20%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽療法演習Ⅷ			科目ナンバリング	MT3M1T48
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ACEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	臨床研究については、臨床実践から明らかになったこと、調査、実験研究についてはその分析結果、文献研究においては、そこから見出した新たな視点などを先行研究から探り、音楽療法の研究や手段について探究することを目指す。弾き歌いの課題は自分で目的を定め発表できることを目指す			
授業の概要	演習Ⅶに引き続き、各自の卒業研究のテーマに沿った文献を読み解き、他者の研究についても共に学び、様々な研究法を学ぶ。さらに卒業論文発表に向けて、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。また演習Ⅶと同様に、弾き歌いも行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 各自の研究状況について発表し、今後の研究計画を検討する	シラバスの熟読。	研究計画の検討
	2	各自の研究結果についてまとめる 弾き歌いレッスン(試験曲)	各自の研究結果をまとめる	自分の研究との関連を検討し、まとめる 課題曲の練習
	3	文献を読み解き、各自の研究方法について探る (研究動機、目的、方法について)	各自の卒業研究に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる 課題曲の練習
	4	各自の研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う	各自の研究についてまとめ、発表準備を行う	自分の研究目的と方法について検討する
	5	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究目的、方法について再検討) 弾き歌いレッスン(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	6	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	7	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について再検討)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	8	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる (研究結果の考察) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習

	9	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる (研究結果の考察) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	10	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について再検討)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	11	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる (研究結果の考察とまとめ) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関する文献を読み解く 課題曲の練習	自分の研究との関連をまとめる 課題曲の練習
	12	研究のプレゼンテーション方法について学ぶ 弾き歌い発表(試験曲)	プレゼンの方法について調べる 課題曲の練習	プレゼンテーションの準備、試験曲の練習
	13	各自の研究発表を行い、プレゼン方法について学ぶ(試験曲)	プレゼンテーションの準備、試験曲の練習	各自のプレゼンの方法を検討する 課題曲の練習
	14	各自の研究発表を行い、他者の発表についても検討する(試験曲)	プレゼンテーションの再検討、試験曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	15	まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	文献研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	20%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	声楽Ⅴ			科目ナンバリング	NV3M3C13
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				BDEF
備考	※教職履修学生は履修が望ましい(声楽コースを除く)				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に内容が楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようにする。			
授業の概要	音楽のいかなる専門においても「歌うこと」は表現の基礎として重要である。言葉の表現内容の解釈や楽曲構成の理解をさらに研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術の習得と豊かな心の形成を図る。 * 声楽Ⅲ・Ⅳのテキストに加え、学生個々の進路や個性に応じた教材を使用。試験曲はオペラアリアも可。 * 教職履修学生は「赤とんぼ」「浜辺の歌」「荒城の月」「花」を課題曲とし、暗譜歌唱する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する
	2	各自課題曲13(身体と声の関係)	身体を解放することを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲13(声の響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲13 (息の流れと身体の支え)	息の流れと身体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲13(発声と発音)	発音と発声を意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲14(発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲14(母音の響き)	豊かな母音の響きで歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲14(言葉の響き)	どの言葉も豊かな響きを歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲14(歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲15(母音の響きと呼吸法)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲15 (イタリア語の発音と発声)	どの言葉も豊かな響きを歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲15(言葉と旋律の関係)	歌詞の意味を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽Ⅵ			科目ナンバリング	NV3M3C14
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				BDEF
備考	※教職履修学生は履修が望ましい(声楽コースを除く)				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に、内容や楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏できるようになる。			
授業の概要	表現の基礎として重要な「歌うこと」を各自の専門に活かせるように、言葉の表現内容の解釈や楽曲構成の理解をさらに研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術の習得と豊かな心の形成を図る。 * 学生個々の進路や個性に応じた教材を使用。試験曲はオペラアリアも可。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する
	2	各自課題曲16(発音と呼吸法)	課題曲を原語で練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲16(母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲16(言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲16(旋律の表現)	フレーズのまとまりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲17 (言葉の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲17(言葉と旋律)	原語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲17(旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の関わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲17(言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲18(歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲18 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲18(伴奏と旋律)	伴奏と歌との関りを理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	楽譜は授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	ピアノⅤ			科目ナンバリング	NP3M4C05
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	選択必修		選択必修	ADE
備考	※作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修／教員免許状取得希望者は履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅳで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	シラバスを読み、 授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様式・奏法を学ぶ	作品の様式に合った奏法を考察する	身体の使い方等を見直す
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景を調べる	学びを表現につなげる
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	作品の正確に合ったふさわしい奏法を探る	次回に向け、学んだことをまとめる
	5	試験の課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテンポ感や音色をつかむ	学んだ形式をまとめる
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の様式について調べる	学んだ形式をまとめる

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の作曲家の作品を視聴する	学んだ様式を整理する
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上で重要な強弱法を見直す	指示された事柄について練習を進める
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音色のバランスを確認する	学んだ和声についてまとめる
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音色を考える	適確なペダリングができているか確認する
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまとめる	技術および表現法の改善に取り組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	暗譜の不確かな部分がないか確認する
	15	まとめ	後期の課題候補曲を準備する	学びの総まとめをする

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅥ			科目ナンバリング	NP3M4C06
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	選択必修		選択必修	ADE
備考	※作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修／教員免許状取得希望者は履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅴで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	課題曲を準備する	指示された事柄について練習を進める
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様式・奏法を学ぶ	作品の様式に合った奏法を考察する	指示された奏法を取り入れ練習する
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景を調べる	学んだ時代背景をまとめる
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	曲に合った表現を試みる	指示された事柄について練習を進める
	5	試験の課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を調べる	曲に現れる作曲家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテンポ感や音色をつかむ	指示された事柄について練習を進める
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の様式について調べる	学んだ形式をまとめる

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の作曲家の作品を視聴する	作曲家の独自性を確認する
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上で重要な強弱法を見直す	指示された事柄について練習を進める
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音色のバランスを確認する	学んだ和声についてまとめる
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音色を考える	適確なペダリングができているか確認する
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまとめる	技術および表現法の改善に取り組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	暗譜の不確かな部分がないか確認する
	15	まとめ・統括	前回までに学んだ内容を復習する	学びの総まとめをする

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅦ			科目ナンバリング	NP3M3C07
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	選択必修		選択必修	ADE
備考	※教員免許状取得希望者は履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅵで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	シラバスを読み、 授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様式・奏法を学ぶ	作品の様式に合った奏法を考察する	身体の使い方等を見直す
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景を調べる	学びを表現につなげる
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	作品の正確に合ったふさわしい奏法を探る	次回に向け、学んだことをまとめる
	5	試験の課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を調べる	曲に現れる作曲家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテンポ感や音色をつかむ	学んだ奏法を取り入れ復習する
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の様式について調べる	学んだ形式をまとめる

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の作曲家の作品を視聴する	作曲家の独自性を確認する
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上で重要な強弱法を見直す	指示された事柄について練習を進める
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音色のバランスを確認する	学んだ和声についてまとめる
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音色を考える	適確なペダリングができているか確認する
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまとめる	技術および表現法の改善に取り組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	暗譜の不確かな部分がないか確認する
	15	まとめ・統括	前回までに学んだ内容を復習する	学びの総まとめをする

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅧ			科目ナンバリング	NP3M3C08
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	選択必修		選択必修	ADEF
備考	※教員免許状取得希望者は履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	ピアノⅠ～Ⅶで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	セメスターの学習計画を立てる レッスンについての説明と楽曲決め	課題曲を準備する	指示された事柄について練習を進める
	2	能力に応じた作品を選び、作品の様式・奏法を学ぶ	作品の様式に合った奏法を考察する	指示された奏法を取り入れ練習する
	3	決定した作品の時代背景を中心に学ぶ	作品の時代背景を調べる	学んだ時代背景をまとめる
	4	決定した作品の奏法を中心に学ぶ	曲に合った表現を試みる	指示された事柄について練習を進める
	5	試験の課題曲を決め、読譜する	試験課題候補曲を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ	曲の時代背景を調べる	曲に現れる作曲家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学ぶ	曲に合ったテンポ感や音色をつかむ	指示された事柄について練習を進める
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ	曲の様式について調べる	学んだ形式をまとめる

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の作曲家の作品を視聴する	作曲家の独自性を確認する
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上で重要な強弱法を見直す	指示された事柄について練習を進める
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音色のバランスを確認する	学んだ和声についてまとめる
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音色を考える	適確なペダリングができているか確認する
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまとめる	技術および表現法の改善に取り組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	暗譜の不確かな部分がないか確認する
	15	まとめ・統括	前回までに学んだ内容を復習する	学びの総まとめをする

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	演奏実技Ⅴ			科目ナンバリング	NC3M3T19
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードD-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードD-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードD-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードD-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードD-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードD-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲D-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲D-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲D-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲D-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲D-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか

科目名	演奏実技Ⅵ			科目ナンバリング	NC3M3T20
担当者	実技系教員（主に管弦打）				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードE-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードE-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードE-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードE-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードE-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードE-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲E-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲E-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲E-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲E-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲E-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか

科目名	演奏実技Ⅶ			科目ナンバリング	NC3M3T21
担当者	実技系教員（主に管弦打）				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDF
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードF-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードF-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードF-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードF-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードF-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードF-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲F-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲F-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲F-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲F-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲F-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか

科目名	演奏実技Ⅷ			科目ナンバリング	NC3M3T22
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDF
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードG-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードG-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードG-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードG-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードG-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードG-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲G-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲G-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲G-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲G-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲G-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか

科目名	合唱Ⅴ			科目ナンバリング	MC3M1T05
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	両学科共通			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
	2	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ド唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ド唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱Ⅵ			科目ナンバリング	MC3M1T06
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	両学科共通			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	13	リハーサル	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	14	演奏会	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	15	反省と総括	演習楽曲の研究と 練習	合唱音楽につい てまとめる

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱Ⅶ			科目ナンバリング	MC3M4T07
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	両学科共通			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
	2	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ド唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ド唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2〜3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱Ⅷ			科目ナンバリング	MC3M4T08
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	両学科共通			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	13	リハーサル	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	14	演奏会	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	15	反省と総括	演習楽曲の研究と 練習	合唱音楽につい てまとめる

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合奏Ⅴ			科目ナンバリング	MC3M4T13
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(授業計画等)	シラバスを確認	次の授業に備える
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準 備他	本番を終えての 反省点をまとめる
	15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏Ⅵ			科目ナンバリング	MC3M4T14
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の復習 (前期に学んだことの復習および確認)	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える
	2	基本的奏法の修得とその応用① (教材となる曲の発表とその音出し)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修得とその応用③ (リズム・音程のトレーニング)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥ (アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦ (合奏というジャンルを幅広く理解する)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	基本的奏法の修得とその応用⑧ (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	基本的奏法の修得とその応用⑪ (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	15	まとめ③ (教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕)	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏Ⅶ	科目ナンバリング	MC3M4T15		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(授業計画等)	シラバスを確認	次の授業に備える
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準 備他	本番を終えての 反省点をまとめる
	15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏Ⅷ			科目ナンバリング	MC3M4T16
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者をを目指すものに対して適応力および対応力をも養い、実践できるようになる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の復習 (前期に学んだことの復習および確認)	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える
	2	基本的奏法の修得とその応用① (教材となる曲の発表とその音出し)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修得とその応用③ (リズム・音程のトレーニング)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥ (アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦ (合奏というジャンルを幅広く理解する)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	基本的奏法の修得とその応用⑧ (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	基本的奏法の修得とその応用⑪ (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	15	まとめ③ (教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕)	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅠ（オーケストラ）			科目ナンバリング	CP3M1N45
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる			
授業の概要	弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション (授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習
	2	各楽器の編成によるアンサンブル① (特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習
	3	各楽器の編成によるアンサンブル② (教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習
	4	各楽器の編成によるアンサンブル③ (音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習
	5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル① (特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習
	6	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル② (教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習
	7	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③ (音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習
	8	オーケストラスタディ① (交響曲等の第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習

	9	オーケストラスタディ② (交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	10	オーケストラスタディ③ (交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	11	オーケストラスタディ④ (交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	12	演奏会を想定した教材曲のまとめ① (流れと注意)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	13	演奏会を想定した教材曲のまとめ② (ポイントと粗通し)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表会の準備	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅠ（パフォーマンス・コラボレーション）			科目ナンバリング	CP3M1N45
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける			
授業の概要	ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習
	2	課題①(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習
	3	課題①(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習
	5	課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習
	6	課題②(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習
	7	課題②(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習
	8	課題②(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習

	9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAIについて)	課題②の演奏効果について	課題②練習
	10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	アンサンブルⅠのまとめとⅡの準備(選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アンサンブル I (ピアノ)			科目ナンバリング	CP3M1N45
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	モーツァルトの連弾曲を導入として、アンサンブルに必要な基礎技術を学ぶ。2人で1つの音楽を作り上げることができる。技能と知識、態度を兼ね備えられている。学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組むことができる			
授業の概要	連弾を中心にアンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。 授業はレッスン形式で行う。 学生のそれぞれの力を考慮しながら2人1組を中心に学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	学修計画を立てる 簡単な連弾曲を初見で演奏する	連弾曲について調べる	モーツァルト連弾ソナタを聴く
	2	モーツァルトの四手のためのピアノソナタの中から楽曲を決定する 初見で合わせてみる	モーツァルトの連弾ソナタを調べる	モーツァルト連弾ソナタを弾く
	3	選択した四手のためのピアノソナタの時代背景を学ぶ	モーツァルトの時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する
	4	連弾の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれて練習する	各パート奏法の追求
	5	連弾の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	6	連弾曲の構成③ 形式を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	楽曲分析
	7	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する① プリモ・セコンドの意義	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する④ 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
	11	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する⑤ 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
	15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

このシートには直接入力できません。

科目名	アンサンブル I (声楽)			科目ナンバリング	CP3M1N45
担当者	赤池 優				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	互いの発音(母音の響き)やフレーズ感をあわせ、ハーモニーを感じながら歌唱できる。歌詞の内容を把握した表現ができる。			
授業の概要	歌曲を中心にオペラ・宗教曲・カンタータ・ミュージカルなどの重唱曲を課題とし、ソロとは異なるアンサンブルに必要な能力を養う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明と課題曲決め	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の内容を調べる
	2	課題曲1・2 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	3	課題曲1・2 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	4	課題曲1・2 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる
	5	課題曲3・4 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	6	課題曲3・4 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	7	課題曲3・4 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる

	8	課題曲5・6 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	9	課題曲5・6 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	10	課題曲5・6 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる
	11	課題曲1～6 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	12	課題曲1～6 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	13	課題曲1～6 (内容表現をさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	14	課題曲1～6 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	アンサンブルⅡ（オーケストラ）			科目ナンバリング	CP3M1N46
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる			
授業の概要	後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	演奏会の曲目発表および準備その他	シラバスを確認	教材曲の研究と練習
	2	演奏会用プログラム① (楽曲分析等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	3	演奏会用プログラム② (曲想・流れ等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	4	演奏会用プログラム③ (技術的問題点等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	5	演奏会用プログラム④ (音楽表現の工夫等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	6	パートおよびセクション① (更に細分化したアンサンブル)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	7	パートおよびセクション② (①の改善点をふまえた内容)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	8	学生ソリストとの合わせ	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習

	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル (本番を想定し、改善点を見出すこと等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	10	華麗なる音楽の祭典 本番 (これまでの成果を存分に発揮すること等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲① (第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲② (第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③ (第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④ (第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅡ（パフォーマンス・コラボレーション）		科目ナンバリング	CP3M1N46	
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	3年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける			
授業の概要	ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習
	2	課題①(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習
	3	課題①(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習
	5	課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習
	6	課題②(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習
	7	課題②(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習
	8	課題②(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習

	9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAIについて)	課題②の演奏効果について	課題②練習
	10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	アンサンブルⅡのまとめとⅢの準備(選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アンサンブルⅡ (ピアノ)			科目ナンバリング	CP3M1N46
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる			
授業の概要	連弾を中心にアンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。 授業はレッスン形式で行う。 学生のそれぞれの力を考慮しながらペアを作る			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	後期の学習計画を立てる 連弾曲または、2台のピアノ曲を選曲する	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く
	2	古典から印象派までのアンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する
	4	連弾・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれて練習する	各パート奏法の追求
	5	連弾・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	6	連弾・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
	11	選択した課題曲を発展させる② 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
	15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

このシートには直接入力できません。

科目名	アンサンブルⅡ（声楽）			科目ナンバリング	CP3M1N46
担当者	赤池 優				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	互いの発音（母音の響き）やフレーズ感をあわせ、ハーモニーを感じながら歌唱できる。歌詞の内容を把握した表現ができ、ピアノやパートナーと共に音楽を作り上げることができる。			
授業の概要	アンサンブルⅠ（重唱）に引きつづき、歌曲を中心にオペラ・宗教曲・カンタータ・ミュージカルなどの重唱曲を課題とし、ソロとは異なるアンサンブルに必要な能力を養う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明と課題曲決め	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の内容を調べる
	2	課題曲7・8 （発音練習と詩の朗読・歌唱）	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	3	課題曲7・8 （言葉と響きのアンサンブル）	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	4	課題曲7・8 （内容研究・歌唱）	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる
	5	課題曲9・10 （発音練習と詩の朗読・歌唱）	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	6	課題曲9・10 （言葉と響きのアンサンブル）	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	7	課題曲9・10 （内容研究・歌唱）	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる

	8	課題曲11・12 (発音練習と詩の朗読・歌唱)	発音練習と譜読み	指導内容と課題点をまとめる
	9	課題曲11・12 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	10	課題曲11・12 (内容研究・歌唱)	詩の朗読 作品についての予習	指導内容と課題点をまとめる
	11	課題曲7～12 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
	12	課題曲7～12 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	13	課題曲7～12 (内容表現をさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	14	課題曲7～12 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる
	15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	アンサンブルⅢ（オーケストラ）			科目ナンバリング	PP3M3N47
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる			
授業の概要	弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション (授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習
	2	各楽器の編成によるアンサンブル① (特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習
	3	各楽器の編成によるアンサンブル② (教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習
	4	各楽器の編成によるアンサンブル③ (音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習
	5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル① (特色研究)	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習
	6	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル② (教材曲研究)	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習
	7	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③ (音楽的研究)	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習
	8	オーケストラスタディ① (交響曲等の第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習

	9	オーケストラスタディ② (交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	10	オーケストラスタディ③ (交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	11	オーケストラスタディ④ (交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	12	演奏会を想定した教材曲のまとめ①	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	13	演奏会を想定した教材曲のまとめ②	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表会の準備	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅢ（パフォーマンス・コラボレーション）		科目ナンバリング	PP3M3N47	
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数		単位数	2単位	
対象学科	音楽学科		開設学年	4年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける			
授業の概要	ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習
	2	課題①(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習
	3	課題①(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習
	5	課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習
	6	課題②(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習
	7	課題②(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習
	8	課題②(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習

	9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAIについて)	課題②の演奏効果について	課題②練習
	10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	アンサンブルⅢのまとめとⅣの準備(選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アンサンブルⅢ (ピアノ)			科目ナンバリング	PP3M3N47
担当者	宮谷 理香				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDEF
備考	※ピアノコースの学生は必ず履修すること				

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる			
授業の概要	アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながら2人1組を中心として学ぶ。 アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	学修計画を立てる 簡単な連弾曲を初見で演奏する	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く
	2	古典から印象派までのアンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する
	4	連弾・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれて練習する	各パート奏法の追求
	5	連弾・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	6	連弾・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義学修する	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
	11	選択した課題曲を発展させる② 構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
	15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

科目名	アンサンブルⅣ（オーケストラ）			科目ナンバリング	PP3M3N48
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶ 対外的に実践できるようになる			
授業の概要	後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタ ディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	演奏会の曲目発表および準備その他	シラバスを確認	教材曲の研究と練習
	2	演奏会用プログラム① (楽曲分析等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	3	演奏会用プログラム② (曲想・流れ等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	4	演奏会用プログラム③ (技術的問題点等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	5	演奏会用プログラム④ (音楽表現の工夫等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	6	パートおよびセクション① (更に細分化したアンサンブル)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	7	パートおよびセクション② (①の改善点をふまえた内容)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	8	学生ソリストとの合わせ	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習

	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル (本番を想定し、改善点を見出すこと等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	10	華麗なる音楽の祭典 本番 (これまでの成果を存分に発揮すること等)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲① (第1楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲② (第2楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③ (第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④ (第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅣ（パフォーマンス・コラボレーション）			科目ナンバリング	
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	専攻実技を活かし、社会的に必要とされる音楽、自分が表現しようとする音楽について、様々なコラボレーションのスタイルを探索し実践する。他ジャンルとのコラボレーションによって生まれるサウンドを経験し、必要な編曲の能力も身に付ける。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する力をつける			
授業の概要	ライブ、コンサート、コンテスト、コンクールなど、実際のニーズに合わせて編成を決定し、演奏のための編曲、楽譜制作などを実践し、演奏する。 専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習したうえで、編成に応じた効果的な編曲を学修し、演奏を活かすPAについての知識も学修する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲。可能な編成について	課題曲選曲	課題①練習
	2	課題①(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題①背景・特徴について	課題①練習
	3	課題①(既成曲)への取り組み② 分析(アナリゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題①アナリゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題①表情について	課題①練習
	5	課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習
	6	課題②(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について	課題②背景・特徴について	課題②練習
	7	課題②(既成曲)への取り組み② 分析(アナリゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について	課題②アナリゼ	課題②練習
	8	課題②(既成曲)への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について	課題②表情について	課題②練習

	9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAIについて)	課題②の演奏効果について	課題②練習
	10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	アンサンブルⅣのまとめ

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アンサンブルⅣ(ピアノ)			科目ナンバリング	PP3M3N48
担当者	宮谷 理香				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDEF
備考	※ピアノコースの学生は必ず履修すること／指定された日程のオーケストラ合わせに参加すること				

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる			
授業の概要	アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながらペアを作る。アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	学修計画を立てる 連弾曲、2台のピアノ曲、またはピアノコンチェルトを選曲する	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を聴く
	2	アンサンブル作品の決定した曲の分析	アンサンブル曲について調べる	アンサンブル曲を数曲弾く
	3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練習する
	4	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	プリモとセコンドに分かれて練習する	各パート奏法の追求
	5	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	6	ピアノコンチェルト・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	形式を調べる	楽曲分析
	7	選択した課題曲を分析する① 各パートの意義	奏法を各パートに即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	選択した課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
	11	選択した課題曲を 発展させる② 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
	12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
	14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
	15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

科目名	指揮法			科目ナンバリング	MC3M1C30
担当者	中島 慧				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	両学科共通			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	DE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	バトンテクニックによる、わかりやすくて確かな指示の出し方や、音楽的な表現の実現を目標とする。			
授業の概要	本講義は、バトンテクニックの基礎から応用までを段階的に学び、後半に実際の楽曲を用いた実践演習を行う。基本動作の習得を通じ、明確な指示伝達と音楽表現力の向上を図るものである。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション	特になし	課題演習 ノート整理
	2	動作の基本と基本知識: 立ち方、棒の持ち方、基本姿勢、指揮者の役割と成り立ちについて	前回の復習	課題演習 ノート整理
	3	間接運動: 叩き、平均運動、しゃくいについて、解説と実践	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	4	直接運動: 跳ね上げ運動、瞬間運動、先入、引っ掛けについて、解説と実践	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	5	各種運動のまとめと、組み合わせ練習	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	6	ブレスの基本と実践	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	7	指揮実践Ⅰ: 練習曲Ⅰ-1	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	8	指揮実践Ⅱ: 練習曲Ⅰ-2	前回までの復習	課題演習 ノート整理

	9	指揮実践Ⅲ: 練習曲Ⅱ-1	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	10	指揮実践Ⅳ: 練習曲Ⅱ-2	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	11	指揮実践Ⅴ: 練習曲Ⅲ-1	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	12	指揮実践Ⅵ: 練習曲Ⅲ-2	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	13	指揮実践Ⅶ: 練習曲Ⅳ-1	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	14	指揮実践Ⅷ: 練習曲Ⅳ-2	前回までの復習	課題演習 ノート整理
	15	指揮実践Ⅷ: 練習曲Ⅳ-3	実技試験課題演習	課題演習 ノート整理

使用教科書	【改訂新版】指揮法教程(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	実技試験
	平常点	20%	授業や演習への積極的な取り組み
	演奏	20%	実践補助演奏

科目名	作曲法			科目ナンバリ	MC3M4C54/KC3M2T32	
担当者	中島 慧					
担当形態	単独			単位数	2単位	
対象学科	両学科共通			開設学年	3年次	
開講時期	後期					
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
	※	必修		選択必修	DE	
備考	※声楽・ピアノ・管弦打楽コース以外必修					
授業のテーマ及び到達目標	楽典の基本的知識から作曲の基礎とその応用について学ぶ。和声やコード理論をベースとしてのメロディメイクやリハーモナイゼーションなど、編曲や作曲の知識を幅広く身につける。					
授業の概要	楽典を復習するところから始まり、作、編曲に必要な必須知識や発展的知識などを活用できるように講義を行う。また、混在するさまざまな音楽用語を幅広く学び、実践的な知識として応用できるように講義を行う。					
授業計画	回	学習内容			事前学習	事後学習
	1	楽典の復習Ⅰ： 譜表と音名、拍子とリズムなどの基本知識			特になし	ノート整理
	2	楽典の復習Ⅱ： 音程、ダイアトニックスケールと調と調号			前回までの復習	ノート整理 課外実習
	3	和音の基礎Ⅰ： ダイアトニックコードと各ファンクションとケーデンス			課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	4	和音の基礎Ⅱ： 連結、ボイスイング、ドミナントモーションと終止形			課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	5	和音の基礎Ⅲ： 和音の転回形			課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	6	コードシンボルと和音のさまざまな形態(転回形)			課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	7	和音の応用Ⅰ： セカンダリドミナントとリレイテッドⅡ m7			課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習

	8	和音の応用Ⅱ: モーダルインターチェンジ	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	9	非和声音Ⅰ: さまざまな非和声音と、その禁則	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	10	非和声音Ⅱ: 転位と変位	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	11	非和声音Ⅲ: 延引、短調や借用和音上でのメロディ、やその他非和声音の定型的な使用法、二次転位	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	12	ドミナント応用Ⅰ: さまざまなドミナントの種類とその応用	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	13	ドミナントの応用Ⅱ: ドミナントのまとめと実例やリレイテッドⅡm7での応用	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	14	転調と形式で学ぶ音楽の展開法	課外実習 前回までの復習	ノート整理 課外実習
	15	作曲の実践と流れ	課外実習 前回までの復習	提出課題の準備
使用教科書	プリント配布			
参考書・参考資料等				
成績評価基準	評価方法		割合	評価のポイント
	定期試験		80%	筆記試験、作品提出
	通常授業の課外実習		10%	課題提出
	平常点		10%	積極的な授業や課題への取り組み等

科目名	管弦楽法			科目ナンバリング	MC3M4T55
担当者	柏尾 剛徳				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDE
備考	※作曲コース・電子キーボードコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基本的には管弦楽のスコア(総譜)を読み取ることを目標とする。そのために必要な知識(各楽器の特徴等を理解する)を得ることができ、楽曲の創作および編曲する術を学ぶことができる			
授業の概要	管弦楽法(オーケストレーション)を学ぶには弦楽器・管楽器・打楽器を知る必要がある。従って各楽器について学び、楽曲の例を採り上げ、スコアリーディングおよびアナリゼをし、編曲を試み、よりオーケストレーションに親しめるように実践・応用していく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	導入および弦楽器① (弦楽器の種類他)	管弦楽編成の楽器を調べる	弦楽器についての復習等
	2	弦楽器② (各種奏法と曲例他)	弦楽器の特徴等を調べる	弦楽器についての復習等
	3	木管楽器① (定義・移調楽器・編成他)	木管楽器について調べておく	木管楽器についての復習
	4	木管楽器② (フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴットと曲例他)	木管楽器の特徴がわかる曲を聴く	木管楽器についての復習
	5	金管楽器① (定義・バルブとスライド・倍音他)	金管楽器について調べておく	金管楽器についての復習等
	6	金管楽器② (ホルン・トランペット・トロンボーン・チューバと曲例他)	金管楽器の特徴が分かる曲を聴く	金管楽器についての復習等
	7	打楽器① (種類と奏者他)	打楽器について調べておく	打楽器についての復習等
	8	打楽器② (ティンパニ・太鼓・音律の有り無し他)	打楽器の特徴が分かる曲を聴く	打楽器についての復習等

	9	ハープと鍵盤楽器① (ハープ)	ハープについて調べる	ハープについての復習等
	10	ハープと鍵盤楽器② (鍵盤楽器)	鍵盤楽器について調べる	鍵盤楽器についての復習等
	11	実習① (総譜の書き方実例と研究他)	スコアを読んでおく	総譜を書いてみる
	12	実習② (編曲の実例と研究他)	編曲作品を研究しておく	楽曲を編曲してみる
	13	実習③ (実践と応用他①)	これまでの学びを基に作品を研究しておく	様々な楽曲を参考にし、比べてみる
	14	実習④ (実践と応用他②)	これまでの学びを基に作品を研究しておく	様々な楽曲を参考にし、比べてみる
	15	総まとめ	すべてのおさらいをしておく	総括と反省

使用教科書	新総合音楽講座8「管弦楽法概論」(ヤマハ音楽振興会),
	3つのケーススタディでよくわかる「オーケストレーション技法」(リットーミュージック)
参考書・参考資料等	[完本]管弦楽法(音楽之友社),
	管弦楽法(音楽之友社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	作品提出	70%	理解した上で作品が書けているかどうか
	課題/小テスト	10%	内容の理解度
	平常点	20%	授業態度・積極的姿勢等

科目名	西洋音楽史 I			科目ナンバリング	MC3M3T60
担当者	神野和美				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	
備考					

授業のテーマ及び到達目標	一般的に言われている「クラシック音楽」とは何なのか？歴史から見てくる音楽の本質に触れることで、より深い音楽表現できるようになる			
授業の概要	一番最初にあった楽器は「人の声」であった。音楽の歴史を知識的な事柄だけでなく毎回歌うことによって、生きた体験として積み重ねていく。本講座では、音楽の起こりからバロック音楽までの西洋音楽史に関して、時代の特色を学ぶとともにその時代の重要な作曲家の曲を実際に歌っていくことでより深く考察していく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーションとグレゴリオ聖歌		歌曲の復習
	2	中世(吟遊詩人とマシヨー)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	3	14世紀(ランディーニとモンセラートの朱本)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	4	15世紀(ダンスタブルとデュファイ)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	5	15世紀後期(オケゲム)、器楽(バスダンス)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	6	16世紀(ジョスカンとイザーク)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	7	16世紀後期(パレストリーナとラッススそしてジャヌカン)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	8	イタリア(アルカデルト)、スペイン(モラレスとヴィクトリア)、ドイツ(ハスラー)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習

	9	イギリス(タリス、バードそしてモーリー)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	10	16世紀器楽(メールロ、カベソン、スヴェーリング、ダウランド)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	11	16世紀の進歩的傾向(モンテヴェルディとプレトリウス)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	12	17世紀、初期バロック(シュッツ、フレスコバルディ、シャイト)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	13	17世紀、中期バロック(カバリ、リュリ、パーセル、パッヘルベル)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	14	これまでの歌曲の復習	これまでの作曲家のまとめを始める	これまでの歴史で学んだ作曲家についてまとめる
	15	まとめ	作曲家についてのレポート作成する	

使用教科書	プリント配布
参考書・参考資料等	ヨーロッパ音楽の歴史(朝日出版社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	30%	授業の参加態度、予習復習の準備
	課題レポート	50%	テーマに沿った内容での作成
	歌唱	20%	授業で取り組んだ曲の歌唱態度

科目名	西洋音楽史Ⅱ			科目ナンバリング	MC3M3T61
担当者	神野和美				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	
備考					

授業のテーマ及び到達目標	一般的に言われている「クラシック音楽」とは何なのか？歴史から見えてくる音楽の本質に触れることで、より深い音楽表現できるようになる			
授業の概要	一番最初にあった楽器は「人の声」であった。音楽の歴史を知識的な事柄だけでなく毎回歌うことによって、生きた体験として積み重ねていく。本講座では、後期バロックから現代音楽まで、その時代の作曲家の曲を実際に歌い考察していき自分の音楽感をさらに深く追求していく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	西洋音楽史Ⅰの振り返りと後期バロック(ヴィヴァルディ、ヘンデル、ラモー)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	2	古典派の始まり(スカルラッティ、エマヌエルバッハ)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	3	ハイドン	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	4	モーツァルト	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	5	ベートーベン	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	6	ロマン派の時代(シューマンとショパン)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	7	ベルリオーズ、リスト、ワーグナー	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	8	民族主義の作曲家、ロシアの音楽	作曲家に関して調べる	歌曲の復習

	9	ドイツ圏の音楽(ブラームス)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	10	フランスの音楽(ドビュッシーとラベル)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	11	20世紀(ストラビンスキー、バルトーク)	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	12	これまでの歌曲の復習	作曲家に関して調べる	歌曲の復習
	13	これまでの歌曲の復習	これまで出てきた作曲家をまとめ始める	これまでの歴史で学んだ作曲家についてまとめる
	14	これまでの音楽の歴史を振り返って、音楽の見方がどう変わったか話し合う	授業を振り返り西洋音楽史って何か考えてみる	最終課題をまとめる
	15	課題の整理とまとめ	課題レポートの提出を準備する	

使用教科書	プリント配布
参考書・参考資料等	ヨーロッパ音楽の歴史(朝日出版社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	30%	授業の参加態度、予習復習の準備
	課題レポート	50%	テーマに沿った内容での作成
	歌唱	20%	授業で取り組んだ曲の歌唱態度

科目名	音楽科の授業設計と指導法Ⅰ			科目ナンバリング	MC3M3C33
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ACEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	「学習指導要領の内容を理解し、生徒の思考を促すような授業設計と指導法を探ろう」 学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、教材「赤とんぼ」の模擬授業と検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについての理解とその方法を身につけることができる。			
授業の概要	生徒主体の授業のあり方や深い学びについて考える。 「赤とんぼ」を教材とした授業を構想し、題材観や指導観などを整理し、学習指導案にまとめる。 御船町教育委員会及び嘉島町教育委員会と提携して行う学校支援ボランティア活動を通して、生徒への理解を深め、生徒主体の学習展開を工夫する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	生徒主体の授業のあり方について ・どのような音楽の授業をしていったらよいのだろうか。	シラバスを熟読しておく	「生徒主体の授業」について自分の考えをまとめる
	2	深い学びの実現のために ・音楽科の「見方・考え方」	学習指導要領解説音楽編第1章総説を読んでおく。	「深い学び」について自分の考えをまとめる
	3	音楽科の目標と指導内容	学習指導要領解説の当該箇所を熟読しておく	「赤とんぼ」教材分析
	4	「赤とんぼ」の教材研究(グループ内発表) ・曲の背景 ・音楽的特徴と学習指導要領との関連	事前に調べたことまとめたことをチームズで提出	「赤とんぼ」の教材としての価値をまとめる
	5	教材分析の発表(グループ代表) 赤とんぼの弾き歌い	発表の準備	どのような「赤とんぼ」の授業をしたいか考えておく
	6	オリジナルの授業を考えよう。 ・学習指導案作成 ①題材名と題材設定の理由	指導例を見ておく	「題材設定の理由」を考え、まとめる
	7	②系統観と生徒観	教科書教材(歌唱)の指導内容を確認しておく	自分なりに想定した学級の生徒の実態をまとめる
	8	③指導観と指導計画	「系統観と生徒観」までまとめ、チームズで提出する	「指導観と指導計画」をまとめる

	9	④評価規準と本時の展開	「指導観と指導計画」までまとめ、チームズで提出する	学習指導案を完成する
	10	⑤板書計画と授業の準備	授業に必要な教材等を用意する	必要な視聴覚教材を作成する
	11	指導計画と本時の展開 ・グループ発表	発表準備をする	学習指導案の提出
	12	模擬授業(代表者)と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる
	13	模擬授業(代表者)と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる
	14	模擬授業(代表者)と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる
	15	模擬授業(代表者)と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容について自分なりの考えをまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽(東洋館出版社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート提出物	20%	事前事後学修、内容充実
	課題検討の取り組み	60%	発表資料、学習指導案、模擬授業
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え

科目名	音楽科の授業設計と指導法Ⅱ			科目ナンバリング	MC3M3C33
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ACEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	「学習指導要領の内容を理解し、深い学びを促すような授業設計と指導法を探ろう」 学習指導要領B鑑賞の指導内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、「魔王」と「日本の伝統音楽」を教材とした模擬授業とその検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った鑑賞領域の授業づくりについて理解を深めることができる。			
授業の概要	生徒主体の授業のあり方や深い学びについての考えを深める。 教材「魔王」「能」「文楽」「歌舞伎」の指導案作成と模擬授業及び検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについての理解を更に深め、指導法を工夫することができる。 学校支援ボランティア活動を通して得た、生徒の実態を踏まえ、深い学びを促す授業づくりを工夫する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教師への道 ・介護等体験を振り返って ・鑑賞指導で大切にしたいこと	シラバスを熟読しておく	「鑑賞活動と言語活動」について自分の考えをまとめる
	2	鑑賞指導のポイント ・学習指導要領 ・小学校の鑑賞指導例 ・中学校の鑑賞指導例	配付資料を熟読しておく	「鑑賞と表現の関連」について自分の考えをまとめる
	3	「魔王」の教材研究 ・教材分析	「魔王」を視聴し、内容をまとめておく	「魔王」の教材性をまとめる
	4	「魔王」の教材研究 ・教材分析を発表	気づかせたい内容・事項を考えておく	「魔王」の授業に必要な視聴覚教材等を作成する
	5	「魔王」の指導計画	おおまかな活動の流れを考えておく	本時展開案を作成する
	6	「魔王」の指導計画発表と展開案作成	学習指導要領解説の当該箇所を読んでおく	「ICT活用の意義」をまとめる
	7	授業構想プレゼンテーションと意見交換	プレゼンテーションの準備をしておく	意見を参考に本時展開案を修正する
	8	模擬授業（代表者）と検討会	模擬授業の準備をしておく	検討会の内容をもとに、自分の指導案を修正する

	9	日本の伝統音楽について	配布資料を熟読しておく	伝統芸能の歴史で分かったことをまとめる
	10	選択した教材についての教材研究 ・「文楽」「歌舞伎」「能」から選択	選択した教材を視聴しておく	「文楽」と「歌舞伎」「能」それぞれの特徴を調べる
	11	選択した教材についてのグループ内発表	まとめたものをチームズで提出	加筆修正する
	12	授業構想プレゼンテーションと意見交換 ・指導計画	授業を構想し指導計画を立てる	展開案を考える
	13	授業構想プレゼンテーションと意見交換 ・授業展開	展開案をチームズで提出	板書計画と授業準備
	14	模擬授業(代表)と意見交換会「こんな授業を展開したい」	発表内容をまとめておく	交換会での意見を参考に、授業構想を修正する
	15	意見交換会 「日本の伝統音楽を取り扱う意義」 レポート課題の提示	関連資料を探し、読み、分かったことをまとめておく	自分の考えをまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽(東洋館出版社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	20%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題検討の取り組み	60%	事前事後学修の内容、学習指導案
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え

科目名	オペラ研究Ⅰ			科目ナンバリング	MC3M3N37
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDE
備考	※声楽コースは履修が望ましい。オペラ研究Ⅱをあわせて履修すること				

授業のテーマ及び到達目標	オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。 * 本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む			
授業の概要	モーツァルトをはじめとするオペラから場面を取り出し、それぞれの声質に合った役のレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルを研究する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明 課題作品の時代背景・登場人物について	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題作品について調べる
	2	課題曲1・2 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる
	3	課題曲1・2 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	4	課題曲1・2 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	5	課題曲3・4 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる
	6	課題曲3・4 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	7	課題曲3・4 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	8	課題曲5・6 (歌詞の台詞読み・歌唱)	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる

	9	課題曲5・6 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	10	課題曲5・6 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	11	課題曲1～6 (アンサンブルのパートナーの決定)	自分のパートの役割を捉え正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
	12	課題曲1～6 (役柄の特徴とアンサンブル)	役柄の特徴を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
	13	課題曲1～6 (内容表現の考察)	作品の内容表現を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
	14	課題曲1～6 (アンサンブルの仕上げ)	暗譜して表現できるようにパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
	15	まとめ (演奏発表と講評)	役柄の所作をイメージしてパートナーと歌唱練習する	演奏録音から自分の課題点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習・授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	オペラ研究Ⅱ			科目ナンバリング	MC3M3N38
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDE
備考	※声楽コースは履修が望ましい。				

授業のテーマ及び到達目標	オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。 * 本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む			
授業の概要	オペラ研究Ⅰで取り組んだ作品の役を演じるために必要な心理的動きに伴う所作を研究し演技力を身につける。また舞台上に必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明 課題作品の時代背景・登場人物について	課題曲の練習 役柄・作品について調べる	自分の演じる役柄についてまとめる
	2	課題曲1～6 (音楽練習／歌唱による劇の表現)	課題曲の練習	指導内容と課題点をまとめる
	3	課題曲1～6 (音楽練習／譜面から動きを探る)	課題曲の練習	指導内容と課題点をまとめる
	4	課題曲1～6 (音楽練習／動きを意識したアンサンブル)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	5	課題曲1～6 (表現練習／役柄による動きの違い)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	6	課題曲1～6 (表現練習／台詞と動き)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	7	課題曲1～3 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	8	課題曲4～6 (舞台での基本的な動き・荒立ち稽古)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる

	9	課題曲1～6 (立ち稽古／歌詞からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	10	課題曲1～6 (立ち稽古／音楽からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	11	課題曲1～6 (立ち稽古／歌詞と音楽と演技の関係)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	12	課題曲1～6 (立ち稽古／相手とのコミュニケーションの取り方)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	13	課題曲1～6 (立ち稽古／歌唱・演技での対話表現)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	14	課題曲1～6 (仕上げ)	共演者との練習	指導内容と課題点をまとめる
	15	まとめ (衣装・道具をつけての舞台発表と講評)	共演者との練習	演奏録音から自分の課題点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習・授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	歌曲研究Ⅰ（ドイツ歌曲）			科目ナンバリング	VM3M3N39
担当者	白川 深雪				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABDE
備考	※声楽コースは履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	ドイツ語の発音とリズムを習得し、詩の内容を理解した上で流暢に詩を朗読することができる。 言葉（語感）を活かし、詩の内容を歌唱表現することができる			
授業の概要	ドイツ歌曲における唱法を発音・詩の持つ意味がどのように絡みあっているか、また伴奏と歌とのアンサンブルにも重点をおきながら表現法を探っていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明およびドイツ歌曲の歴史	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の作曲家について調べる
	2	ドイツ語の発音と詩について	教科書等の発音表をみて発音練習する	発音の仕方をまとめる
	3	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる
	4	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる
	5	古典派作曲家のドイツ歌曲課題1（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
	6	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる
	7	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる
	8	古典派作曲家のドイツ歌曲課題2（仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる

	9	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (発音練習・歌唱法)	課題曲の歌詞の 発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題 点をまとめる
	10	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (詩の朗読と内容研究)	詩を朗読し歌詞の 内容を考察する	指導内容と課題 点をまとめる
	11	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題1 (仕上げ)	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題 点をまとめる
	12	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (発音練習・歌唱法)	課題曲の歌詞の 発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題 点をまとめる
	13	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (詩の朗読と内容研究)	詩を朗読し歌詞の 内容を考察する	指導内容と課題 点をまとめる
	14	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題2 (仕上げ)	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題 点をまとめる
	15	古典派・ロマン派の課題曲から各1曲演奏 演奏曲の考察発表	演奏曲についての 考察をまとめる	演奏録音から自 分の課題点をまと める

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	実技試験	50%	ドイツ語の発音・演奏表現の追求と内容考察

科目名	歌曲研究Ⅱ（日本歌曲）			科目ナンバリング	VM3M3N40
担当者	赤池 優				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABCDEF
備考	※声楽コースは履修が望ましい				

授業のテーマ及び到達目標	日本語の語感をもって表現豊かに詩を朗読できる 日本語の語感を活かし、内容を表現した歌唱ができる			
授業の概要	日本歌曲における唱法を詩のもつ意味と発音が旋律とどう絡み合っているか、また伴奏と歌とのアンサンブルに重点をおきながら表現法を探っていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス (授業内容の説明及び日本歌曲の歴史)	シラバスを読み授業の概要を確認する	演習の復習
	2	日本語の発音と詩について (日本語の発音及び詩の内容を読みとる方法について)	詩の朗読	演習の復習
	3	日本歌曲課題1 (日本語の語感を捉えた詩の朗読、課題曲の歌唱)	日本語の発音練習・課題曲の練習	演習の復習
	4	日本歌曲課題1 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習
	5	日本歌曲課題1 (詩の朗読と課題曲の歌唱(仕上げ))	課題曲の練習	演習の復習
	6	日本歌曲課題2 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	演習の復習
	7	日本歌曲課題2 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習
	8	日本歌曲課題2 (詩の朗読と課題曲の歌唱(仕上げ))	課題曲の練習	演習の復習

	9	日本歌曲課題3 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習
	10	日本歌曲課題3 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習
	11	日本歌曲課題3 (詩の朗読と課題曲の歌唱(仕上げ))	課題曲の練習	演習の復習
	12	日本歌曲課題4 (発音練習、課題曲の歌唱)	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習
	13	日本歌曲課題4 (詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱)	課題曲の練習	演習の復習
	14	日本歌曲課題4 (詩の朗読と課題曲の歌唱(仕上げ))	課題曲の練習	演習の復習
	15	まとめ (日本歌曲課題1曲演奏／演奏曲の考察発表)	課題曲の練習	今期学んだことについてまとめる

使用教科書	授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	歌詞、詩の内容の予習・聴講時の取り組み
	実技試験	50%	日本語の発音、演奏表現の追求と内容考察

科目名	伴奏法Ⅲ			科目ナンバリング	MC3M3T43
担当者	平良 大司朗				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ADE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	アンサンブルの基礎能力、耳の向上、総合的な音楽能力の向上・積極的に伴奏を行い、自分の力で様式感に合ったバランスの良い演奏ができるようになる			
授業の概要	ピアノ奏法の要点、役割、方法等を研究する。色々な人の演奏を聴き合うことにより、良い伴奏とはどのようなものかを確認していく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容のオリエンテーション (授業計画と伴奏への認識について)	シラバスを読み、 授業の概要を確認する	指定された楽譜を 準備しておく
	2	岡野貞一の作品を題材に歌詞を味わい、その情景と伴奏パートの関連性について学ぶ	教材曲について調べ、練習する	曲の課題をまとめておく
	3	全体の音量を支えるバスパートの重要性を認識する	歌パートを意識し練習する	歌詞の情景の表現法を復習する
	4	ピアノのハーモニーの中に歌があることを感じる	ハーモニーを意識し練習する	技術および表現法の改善に取り組む
	5	山田耕筰の作品を題材に、歌のパートを歌い、そのドラマを感じピアノに活かす	教材曲について調べ、練習する	曲の課題をまとめておく
	6	ハーモニーや拍子の変化を味わう	歌パートとのバランスを意識し練習する	歌詞の情景の表現法を復習する
	7	美しいメロディーを美しい音で表現する	表現法の工夫についてまとめておく	技術および表現法の改善に取り組む
	8	大中寅二の作品を題材に、音楽だけではなく言葉の意味、大切さを感じ理解する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく

	9	日本的抒情を表現するテクニックを学ぶ	フレーズを意識し練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	10	ハーモニーを支えるバスパートの重要性を感じる	曲の内容と音色の関連性に留意し練習する	技術および表現法の改善に取り組む
	11	滝廉太郎の人物像と作品について考察する	有節歌曲の表現上の工夫をまとめる	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく
	12	歌と伴奏パートの関連性について学ぶ	伴奏パートの音型の意図するものについて考えておく	歌詞の意味・曲の特徴をまとめておく
	13	言葉とメロディー、伴奏に求められるものを考察する	表現法の工夫についてまとめておく	技術および表現法の改善に取り組む
	14	中田喜直の作品を題材に、華麗なピアノイズムと表現のドラマ性を学ぶ	教材曲について調べ、練習する	情景と音色の結びつきをまとめておく
	15	音型によってどのような世界を作り出していくか研究する	指示された内容まで到達するよう練習する	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
	平常点(態度・行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況

科目名	伴奏法Ⅳ			科目ナンバリング	MC3M3T44
担当者	平良 大司朗				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ACEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	初級向けの楽曲指導についての講義を通して、指導者として必要な様々な知識と、レッスンを円滑に行うための能力を実践的に身につけることを目標とする			
授業の概要	初級者のための教材、メソッドについて学び、ピアノ指導に必要な基本的指導法等を体験、考察する。初級向けの楽曲指導を実践的に学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	指導法概論、アンケート等	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜を準備しておく
	2	入門教材の研究	指示された事柄について調べてくる	読譜についてまとめる
	3	初級者向けの教材研究①	指示された導入教材を読んでおく	指導例を熟読する
	4	初級者向けの教材研究②	テクニック上、難しい場所を確認しておく	指導例を熟読し、まとめる
	5	子どもの感性を養うために	指示された導入教材を読んでおく	リズム唱の意義についてまとめる
	6	バロック期の作品の研究	指示されたバロック教材を練習する	各曲の指導法を考察する
	7	カデンツの復習	五線譜を準備する	復習したカデンツをノートにまとめる
	8	身体の使い方等、楽器演奏の基本的な事柄について	指示されたエチュードを練習する	技術と表現の関連性をまとめる

	9	基礎的ピアノ奏法① (運指の考え方、姿勢等)	指示されたバロック作品を練習する	様式をふまえた表現法についてまとめる
	10	基礎的ピアノ奏法② (スケール、アルペジオ等の効果について)	指示された小品を練習する	表現法の変化についてまとめる
	11	楽語(発想記号、速度記号、強弱記号等)の解釈について	指示された小品を練習する	様式感を引き出す指導案をまとめる
	12	楽語(発想記号・速度記号・強弱記号等)の解釈について①	今まで学修した曲の楽譜をそろえ、練習する	バロック期の作風、表現法をまとめる
	13	変奏曲の特色について	指示されたバロック期の教材を練習する	課題曲についてまとめる
	14	ソルフェージュ、エチュードに沿ったアプローチ法について	教材曲を練習する	講義内容の整理および指導者としての理念をまとめる
	15	まとめ	今まで学修した曲を復習しておく	学びの総まとめをする

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	発表	50%	学修課題の理解・修得
	平常点(態度・行動観察)	50%	授業中の積極的な参加

科目名	対位法	科目ナンバリング	MC3M4N29		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※作曲コース・電子キーボードコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基礎的な対位法を理解し、課題の実施ができる。 ポリフォニーに関する楽曲に関心が持ち、創作や演奏に於ける表現力の充実を目指す。 和声学Ⅲ・Ⅳ習得程度の実理解力をもった履修の履修が望ましい。			
授業の概要	二声の対位法を学ぶと共に、バッハの作品を考察することにより、ポリフォニーに対するより深い意識を以て、日頃接する楽曲の実理解力を高める			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ポリフォニーの変遷と20世紀以降の応用的楽曲を考察	対位法、及びポリフォニーとは何か調べておく	本時で取り上げた曲と類似した作品を探す
	2	対位法成立の要因である旋律について考察する	テキストの第1章及び第2章を読む	全音符のみによる旋律を作成
	3	1:1 の理論を学ぶ	テキスト第6章を読む	課題の実施
	4	1:1 による二声対位法を実施する	テキスト第6章を読む	課題の実施
	5	1:2の理論を学ぶ	テキスト第7章を読む	課題の実施
	6	1:2の二声対位法を実施する	テキスト第7章を読む	課題の実施
	7	1:3の二声対位法を実施する (テキストには掲載なし)	非和声音について調べ、テキスト第3章を読む	課題の実施
	8	1:4の二声対位法を実施する	テキスト第8章を読む	課題の実施

	9	1:1、1:2、1:4の総括と確認テスト	1:1、1:2、1:4の復習	課題の実施
	10	移勢対位法を学ぶ	テキスト第3章の掛留を理解し、第9章を読む	課題の実施
	11	華麗対位法を学ぶ	テキスト第10章を読む	課題の実施
	12	種々のカノンについて学ぶ	テキスト第13章を読む	カノンを採用した作品を探す プレアンブルム
	13	バッハのインヴェンションを考察する	シンフォニア2・6・7・14を聴聴き、分析を試みる	インヴェンション4番を分析する
	14	インヴェンション4番の総括 シンフォニアを考察する	シンフォニア2・6・7・14を聴聴き、分析を試みる	他のインヴェンションとシンフォニアの考察を試みる
	15	ホモフォニック作品に於ける ポリフォニー様式を考察する	第4～第5章を読む。本時の内容と同様の楽曲を探す	授業を通して培った内容を総括的に振り返りまとめる

使用教科書	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	学びに対する積極的な姿勢と言動
	課題の実施 / 発表	30%	課題の完成度の高さ / 積極的な発表内容
	筆記試験	60%	課題の完成度

科目名	卒業研究(声楽)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	楽曲を様々な角度から捉え理解を深め、演奏表現の向上に結びつける。また、自分が修得した技術や表現について文字や言葉で伝えることを修得する。
授業の概要	声楽実技研究で取り組む楽曲に関する研究を行う。自分が演奏する作品の歴史、作曲家、作詞者、演奏技法などの研究を行う。また、様々なジャンルの芸術に触れ豊かな感性を育てる。
学修計画	1. これまでに学修してきたレパートリーや演奏能力などをもとに指導教員と年間の学修計画を立てる 2. 作品の概要、時代背景等を探る 3. 作曲家や楽曲様式について調べる 4. 作品の演奏技術や表現を追求する 5. 卒業試験曲(日本歌曲を含む)について考察したことを演奏レポートとして作成、提出する [形式] 形式は自由。1ページを1200字とした場合、3～10ページを目安とする (ページを明記のこと) [提出期限] 当該年度 1月31日 17時30分 (休日の場合は翌週月曜日) 学務課窓口 ※必ず本人が提出すること

--	--

使用教科書	楽譜等を授業時に提示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さと充実、論旨の一貫性等
	口頭試問	30%	研究動機・主体的取り組みの内容等
	特別講座への取り組み	10%	主体性、積極性、追求性
	実技試験	30%	演奏内容

科目名	卒業研究(ピアノ)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽学科において、これまでに研究した演奏技術と音楽的表現をもとに、さらに高度な技術力、洞察力をつける。音楽作品を通して、深い芸術性と豊かな人間性を養う
授業の概要	卒業年次に選んだテーマに沿って楽曲を選択し、作曲家の作品の歴史、様式、演奏技法等の研究を行う。4年間で修得した技術と奏法を舞台において発表する
授業計画	前期 これまでに学んできた実技の技術、理論に加えて、ステージで演奏するために更に深く音楽を追求し、それをもって学内演奏に臨む 後期 学内演奏の経験を踏まえ、演奏法と楽曲の研究の両方から更なる研鑽を積む。卒業試験のために選んだ楽曲について、その作曲家の全体像にも触れ、作品の背景、様式上の特性を考慮しつつ、より完成度の高い演奏を目指す 〔成績評価〕 1、卒業試験(実技試験・公開演奏) 2、口頭試験:卒業試験(器楽実技研究Ⅷ)で演奏した曲の内容について口頭試験を行う 口頭試験は、事前に作曲家・作曲家の作品の歴史、様式、楽曲分析、演奏技法などをレポート用紙5枚程度に調べた上で、口頭試験に臨む 3、学内、学外での演奏会、講座等の鑑賞や出演で評価する ※提出期限 該当年度の1月31日（祝日の場合は翌週の月曜日）17:30 提出窓口 学務課

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	30%	演奏内容
	卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さ・主体的取り組み
	口頭試問	30%	研究動機・研究内容に対する詳細な質問
	特別講座への取り組み	10%	主体性・積極性・追求性

科目名	卒業研究(管弦打)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	演奏表現を学ぶ者にとって重要なこととして、個々の楽器演奏の習得のみならず、歌劇他、多方面の芸術を実際に見聞することにより、深い芸術性を養うこと。さらに専攻楽器の専門性を磨くことに加え、管弦打楽器の知識を深め、その指導法等、様々な角度から研究を行うことができるようになる
授業の概要	自らが選んだ楽曲に対し、作曲家自身の作品成立史・時代様式・技法等の研究を前提とする。4年間を通して習得した技能・知識を駆使し、一演奏家として舞台において発表することを意味する。学内演奏会・卒業試験が課される
授業計画	1.前期は学内演奏会、後期は卒業試験として公開試験となるので、それぞれに向けた選曲および、楽曲研究をする 2.専攻楽器のレパートリーの研究をする 3.普段の実技とは違った角度でアナリゼを中心とし、楽曲の時代背景や作曲された経緯その他を研究し、レポートを提出する(※) 4.その他、管弦打楽器の知識を深め、将来学校現場等で吹奏楽や管弦楽を指導することも想定し、様々な角度から研究を行う ※3.のレポートについて ●形式:自由形式 ●サイズ:A4 ●文字数:1ページ1200字程度 ●枚数:3枚以上10枚以内 ●提出窓口:学務課 ●提出期限:別途定める

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	30%	演奏内容
	卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さ・主体的取り組み
	口頭試問	30%	研究動機・研究内容に対する詳細な質問
	特別講座への取り組み	10%	主体性・積極性・追求性

科目名	卒業研究(作曲)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	中島 慧				
担当形態	複数			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	想像する音や目的を具現化させるためのノウハウを、修辞法や理論、傾向などをベースに探究する。
授業の概要	和声法をはじめとし、和声対位法、パークリーメソッド、さらには管弦楽法や各時代の音楽スタイルをベースとして自作曲にそれらのセンテンスを盛り込めることを目標とし、授業を行う。
授業計画	必要に応じて和声学、和声的対位法、管弦楽法、楽曲分析、コード進行法(パークリーメソッド)、音楽形式の研究と創作、編曲、スコアリーディング、即興演奏法、作曲実習など、幅広い分野をカバーする。 これらのテーマは通年にわたって学習されるが、各受講者の興味や能力に応じて内容を柔軟に調整し、古典的な技法から現代的なアプローチまで、バランスの取れた学習体験を提供することを目指す。

--	--

使用教科書	指導教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	自作曲の質、表現の完成度、楽譜提出
	平常点	20%	積極的な取り組み、演奏会の鑑賞・出演

科目名	卒業研究（パフォーマンス）			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高める 実技演習として、個々の専攻実技の基本的な奏法を、楽曲を通して学び、個々の専攻実技のレパートリーを広げる また、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について研究し、コード、ハーモニー等の理論について研究する
授業計画	・個々の専攻実技を、楽曲を通して学ぶ 専攻の幅広い理解のため、楽器について、歴史について学習する 楽曲の背景(作曲家、作詞者、時代等)について考察し、豊かな知識と表現力を身につける ・各専攻の理解と総合力を高めるため、ミュージカル、オペラ、ライブコンサート等、数多くの経験を積み、表現力を身につける ・各専攻の理解のため、コード、ハーモニー等の理論について学習する 他ジャンルとのコラボレーションを行い、個々の専攻(楽器)を活かすために、自作曲の創作、既成曲の編曲を行う 創作に必要な作曲技法・編曲技法を学ぶ ・オーケストラの楽曲の分析、奏法を考察することで、音楽力の幅を広げ、更に自己の演奏能力を生かし、豊かな音楽性を身に付ける

--	--

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度
	平常点	20%	積極的な取り組み、演奏会への出演

科目名	卒業研究(音楽教育)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	岩山 恵美子・中村理恵				
担当形態	単独			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考	※仮題目提出 R7年 5月21日 正式題目提出 R7年10月1日 査読申請書提出 R8年 1月16日 卒業論文提出 R8年 3月16日				

授業のテーマ及び到達目標	音楽教育における教育研究の方法を修得する
授業の概要	各自が設定した音楽教育に関するテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

授 業 計 画

〔概要〕 ・音楽教育コースにおける卒業論文は「卒業研究」(必修4単位)として大学が課す卒業要件のひとつである。音楽教育コースにおいては、卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。 〔提出期限及び提出先〕 ・卒業論文提出期限は、2026年1月16日(金)午後4時15分とする。時間厳守のこと。 - 期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。 ・必ず本人が本学教務課窓口に持参し、提出すること。 ・提出時には査読用に論文を5部提出すること。 〔諸手続き〕 ・卒論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませなくてはならない。 下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文査読は行わない。 - 卒業論文仮題目届(別紙様式1) 2025年5月21日(水) - 卒業論文正式題目届(別紙様式2) 2025年10月15日(水) - 卒業論文査読申請書(別紙様式3) 2026年1月16(金)論文提出時 - 卒業論文発表会(2026年2月3日(火)の予定) - 卒業論文口頭試問(卒業論文発表会の後で実施、日時は別途定める) 〔内容〕 ・音楽教育コースの卒業論文は、音楽教育に関する実践研究を旨とする。その基礎理論として教育学、音楽教育学、心理学、音楽史などの内容を含む。概ね以下のような内容が望ましい。 - 音楽教育の題材内容、指導過程、指導法、評価に関する実地研究(授業研究) - 音楽教育の基礎理論に関する実証的研究(調査研究) - 音楽教育の基礎理論に関する文献的研究(文献研究) 〔形式及び体裁〕	〔記述上の注意〕 《目次》 - 各プロットおよび、それらが何ページ目から始まるか明記する。 《本論》以下の流れを基本とする。(分かりやすくするための変更は可) ・はじめに: 研究の動機などについて論述する。 ・研究主題について: 先行研究や社会的諸問題、教育界の動向などから、問題点を明らかにする(問題提起) - 何を明らかにするのかを明確にする。 ・研究の構想: 仮説を立てる。研究の基本的な考え方や方法について論述する。 ・研究の実際: 問題点にせまった方法とその結果についてまとめる。 研究授業を行った場合は、実践授業の内容や児童生徒の変容と実践で明らかになったこと。 調査研究の場合は、調査の方法や手続き、分析結果など。 文献研究の場合は、文献を読み解き、関係性や新たな視点など。 ・成果と課題: 研究主題で掲げた問題提起や研究の構想で掲げた仮説がどのように検証されたのかを分析・考察し、その結果を読み解きながら、音楽教育についての新たな考えについて論述する。 - また、今後に残された課題について論じる。 ・図表・画像・楽譜は必要な分に留める ・必要な図表は全て載せること。論旨に関係があるかどうかよく吟味すること ・図表・画像・楽譜の下には必ずキャプション(説明)をつけること。 ・図表・画像・楽譜には通し番号をつけ、本文中で参照図表を指定
--	--

- ・A4版縦、横書き、1ページ40字×36行とする。
余白は上下2cmずつ、左右に2.5cmずつそれぞれ空けること。
- ・見出しは、10.5ポイントのMSゴシック、本文は10.5ポイントのMS明朝であること(邦文、欧文ともに)
- ・必ずワープロソフトを用いて作成すること。
- ・論文は以下の順でファイルに綴じること(左側を綴じる)
表紙(表)(表紙には、研究主題、学籍番号、氏名を記載し、押印)
内表紙 (研究主題、学籍番号、氏名、提出年月日を記載する)
論文要旨 (論文全体の趣旨を簡潔に説明する)
目次
本論
注釈
引用・参考文献一覧
資料 (使用した調査用紙、アンケート、学習カード、楽譜、教材原稿等の見本)
表紙(裏)
- ・総ページ数、30ページ程度が一応の目安

する。
(「～については表1を参照されたい」など)
なお、表の場合は、表1、表2・・・のように、
図と画像の場合は、図1、図2・・・のように、
楽譜については、譜例1、譜例2・・・のように記す。
・図表・画像・楽譜はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、
本文への貼り付けは認めない。

〔引用・参考文献一覧〕
・引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。
パンフレット、講演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事
は本編において引用してはならない。
・文献の表記について
著者、発表年、タイトル、掲載紙名、巻・号、掲載ページを明記すること
例：國安愛子 2005 情動と音楽 音楽之友社 74-78
・文献の記載順序について
引用、参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順(邦人
の場合は、表記は日本語で、順序はローマ字で)とする。
同一著者に複数の文献がある場合は発表年順とする。

〔その他〕
論文は査読後、2冊製本し、本学図書館と音楽教育演習室に各1
冊保管する。

<成績評価規準>
卒業論文の審査に当たっては、主査1名(音楽教育主任)、副査4名
(うち、一人は教職課程担当)とする。
評価は5名の評定平均。単位認定は、査読者の合議に基づき音楽
教育主任が行う。

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、データの扱い
	口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答内容
	研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求力

科目名	卒業研究(音楽療法)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法における学術的研究の方法を修得する
授業の概要	各個人が音楽療法に関する自分のテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

授 業 計 画

[概要] 音楽療法コースにおける卒業論文は「卒業研究」(必修4単位)として大学が課す卒業要件のひとつである。音楽療法コースにおいては、卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。 [提出期限及び提出先] - 卒業論文提出期限は、2026年1月16日(金)午後4時15分とする。時間厳守のこと。 - 期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。 - 必ず本人が本学教務課窓口持参し、提出すること。 - 提出時には査読用に論文を5部提出すること。 [諸手続き] - 卒論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませなくてはならない。 - 下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文査読は行わない。 - 卒業論文仮題目届(別紙様式1) 2025年5月21日(水) - 卒業論文正式題目届(別紙様式2) 2025年10月15日(水) - 卒業論文査読申請書(別紙様式3) 2026年1月16日(金)論文提出時 - 卒業論文発表会(2026年2月3日 実技試験期間に実施) - 卒業論文口頭試問(卒業論文発表会の後で実施、日時は別途定める) [内容] - 音楽療法コースの卒業論文は、音楽教育に関する学術的研究を旨とし、その基礎科学として 周辺諸科学(医療・福祉・心理学・教育学・社会学・音楽学など)の内容を含む。概ね以下のような方法・内容が望ましい。 - 音楽療法の実践法に関する実地研究、対象者・治療プロセスに関する研究(臨床研究) - 音楽療法の基礎理論に関する実証的研究(調査・実験研究) - 音楽療法の歴史および基礎理論に関する文献学的研究(文献研究)	[目次] 各章、各節のタイトルおよび、それらが何ページ目から始まるか明示する。 [本編] - 本編は章、節、項からなる。 - 章の序数はローマ数字を用いる。(例:第Ⅰ章、第Ⅱ章…) - 節の序数は算用数字を用いる。(例:1. 問題提起…) - 項の序数は括弧つきの算用数字を用いる。(例:(1)手続き…) - 本文中の論文箇所を特定したい場合は、上記の序数規則に従い表記する。 (第1章・第2節・第3項を示す場合は、Ⅰ-2-(3) のように表記する) - 本編は以下の流れを基本とする。(わかりやすくするための変更は可) - 序章:「はじめに」に相当する部分。研究動機などについて論述する - 第Ⅰ章:何を明らかにするのかを明確にし、先行研究から未解明の問題点を明らかにする。(問題提起)仮説を立てる。 - 第Ⅱ章:「実証」に相当する部分。前章で指摘した問題点を、解明した方法とその結果についてまとめる。臨床研究の場合は臨床実践とそこから明らかになったこと。調査、実験研究の場合は調査の方法や手続き、分析結果など。文献研究の場合は文献を読み解き、関係性や新たな視点を見出すこと。 - 第Ⅲ章:「考察」に相当する部分。第Ⅰ章で掲げた問題提起や仮説がどのように実証、立証されたのかを考察し、その結果を読み解きながら、音楽療法についての新たな知見、理論を展開する。 - 結語:研究を振り返り、まとめを行う。また今後に残された課題について論じる。 - 謝辞:必要な場合は記載する。特に研究に協力してくれた人たちに對する感謝の気持ちを記す。 - 図表・画像は必要な分にとどめる。 - 必要な図表は全て載せること。論旨に関係のない図表は載せてはならない。 - 図表・画像は全て白黒で掲載すること。ただし特に色彩見本などを必要とする場合はその限りではない。
--	---

[形式及び体裁]

- ・A4版縦、横書き、1ページ40字×30行とする。
- 余白は上下2cmずつ、左右に2.5cmずつそれぞれ空けること。
- ・タイトル・見出しは、10.5ポイントのMSゴシック、本文は10.5ポイントのMS明朝であること(邦文、欧文とも)
- ・必ずワープロソフトを用いて作成すること。手書きは認めない。
- ・黒表紙、左側をひも綴じする。
- ・論文は以下の順で綴じる。

黒表紙(表)(表紙には、タイトル(副題)、学籍番号、氏名を記載し押印する)

見返し(白紙1枚)

内表紙 (タイトル(副題)、学籍番号、氏名、提出年月日を記載)

論文要旨 (3～4ページ:論文全体の趣旨を簡潔に説明する)

目次

本論

注釈

引用・参考文献一覧

附録 (使用した質問紙・調査紙・アンケート・教示原稿等の見本を綴じ込む)

黒表紙(背)

- ・総ページ数、50ページ以上が一応の目安(短ければ十分な論述はできない。長すぎるのは冗長となる)
- ・「だ・である」調の統一すること。

- ・図表・画像には通し番号をつけ、本文中で参照図表を指定する。(「～については表1を参照されたい」など)
- なお、表の場合は、表1、表2・・・のように、図と画像の場合は、図1、図2・・・のように記す
- 楽譜については、譜例1、譜例2・・・のように記す。
- ・図表・画像はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、本文への貼り付けは認めない。

[引用・参考文献]

- ・引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。
- パンフレット、講演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事は本編において引用の対象・論拠としてはならない。
- ・文献の表記について
- 著者、発表年、タイトル、掲載紙名、巻・号、掲載ページを明記すること。
- 邦文、欧文の表記方法は以下の通りとする。
- 例: 柏木恵子 1986 自己制御の発達 心理学評論、29、3-24
- 安田三郎・海野道郎 1977社会統計学 改訂2版 丸善
- Paivio,A,1968 A factor-analytic study of word attributes and verbal learning.
- Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior,7(1),41-49
- ・文献掲載例は日本心理学会編「心理学研究・執筆・投稿の手引き」1991年改訂版 を参照した。
- ・文献の掲載順序について
- 引用、参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順(邦人の場合は、表記は日本語で、順序はローマ字で)とする
- 同一著者に複数の文献がある場合は発表年順とする。

[その他]

論文は査読後、1冊製本し、本学図書館に保管する

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、データの扱い
	口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答内容
	研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求力